

高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 国語 科目 現代の国語

教科：国語 科目：現代の国語 単位数：2 単位
 対象学年組：第1学年 1組～6組
 教科担当者：（1組：吉岡 哲）（2組：吉岡 哲）（3組：吉岡 哲）（4組：樋口 康一郎）（5組：樋口 康一郎）（6組：樋口 康一郎）
 使用教科書：（現代の国語（東京書籍））

教科 国語 の目標：
 【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
 【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
 【学びに向かう力、人間性等】 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 現代の国語	の目標：
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】
実社会に必要な言葉の特徴や使い方、話や文章に含まれている情報の扱い方などの国語の知識や技能を養う。	論理的に考える力や、共感したり想像したりする力を伸ばす。またそれらを他者との関わりの中で伝え合い、一層深めていく。
	【学びに向かう力、人間性等】
	読書に親しみ自己を向上させようとし、言語文化の担い手としてその価値を認識する。また言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
		語 文	書 読	読						
1 学 期	A 読解編1 科学から見た人間「学ぶと言うことと人間の知恵（広中平祐）」 【知識及び技能】基礎的な評論文を通し、論の構成や内容を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】物事を論理的かつ多面的にとらえることに取り組む。 【学びに向かう力、人間性等】基礎的な評論文や文語の言い回しに興味を持って取り組む。	・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointプリントなどを利用して説明する。 ・教材 教科書および副教材 ・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。	○	○	○	【知識及び技能】基礎的な評論文を通し、論の構成や内容を理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】物事を論理的かつ多面的にとらえることに取り組める。 【学びに向かう力、人間性等】基礎的な評論文や文語の言い回しに興味を持てる。	○	○	○	5
	B 探求編2 図書館の利用方法 手順を整理して正確に伝える 【知識及び技能】図書館の利用方法を学び、読書に親しむ態度を養う。 【思考力、判断力、表現力等】身近な題材で手順書を作り、自身の持つ情報を端的に他者に伝えるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】他者に自身の考えを分かりやすく伝	・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointプリントなどを利用して説明する。 ・教材 教科書および副教材 ・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。	○	○		【知識及び技能】図書館の利用方法を学び、読書に親しむ態度を持てる。 【思考力、判断力、表現力等】身近な題材で手順書を作り、自身の持つ情報を端的に他者に伝えられる。 【学びに向かう力、人間性等】他者に自身の考えを分かりやすく伝えるように努力できる。	○	○	○	2
	定期考査						○	○		1
	C 読解編2 視点を変える「水の東西」（山崎正和）、言葉へのまなざし「言葉は世界を切り分ける（今井むつみ）」 【知識及び技能】言葉を通して他者に関わることの難しさや重要性を認識する。 【思考力、判断力、表現力等】言葉を巡る評論を読み、言語生活に対する価値認識を深める。 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointプリントなどを利用して説明する。 ・教材 教科書および副教材 ・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。	○	○	○	【知識及び技能】抽象的な内容を中心とした評論文の内容を理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】評論文でよく用いられる語彙や言葉の表現を自分のものにする。 【学びに向かう力、人間性等】抽象的な文章の読解に興味をもって取り組める。	○	○	○	6
	F 探求編 グラフや写真の読み取り方 【知識及び技能】文章以外の多様なメディアから情報を読み取らせる。 【思考力、判断力、表現力等】文章以外の多様なメディアから得た情報を文章化させる。 【学びに向かう力、人間性等】日常生活にあふれる、多様なメディアに興味を持って触れさせる。	・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointプリントなどを利用して説明する。 ・教材 教科書および副教材 ・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。	○	○		【知識及び技能】文章以外の多様なメディアから情報を読み取れる。 【思考力、判断力、表現力等】文章以外の多様なメディアから得た情報を文章化できる。 【学びに向かう力、人間性等】日常生活にあふれる、多様なメディアに興味を持って触れようとする。	○	○	○	6
定期考査						○	○		1	

2 学 期	E 読解編3. メディアを考える 「広告の形而上学(岩井克人)」 「映像文化の変貌(松浦寿輝)」 【知識及び技能】 抽象的な内容を中心とした評論文の内容を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 評論文でよく用いられる語彙や言葉の表現を身に付けさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 抽象的な文章の読解に興味をもって取り組む。	・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointプリントなどを利用して説明する。 ・教材 教科書および副教材 ・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。	○ ○ ○	【知識及び技能】 抽象的な内容を中心とした評論文の内容を理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 評論文でよく用いられる語彙や言葉の表現を自分のものにできる。 【学びに向かう力、人間性等】 抽象的な文章の読解に興味をもって取り組める。	○ ○ ○	8
	D 探求編1. 読書に親しむ 【知識及び技能】 効果的なプレゼンテーションの方法を学ばせる。 【思考力、判断力、表現力等】 ビブリオバトルを行い、他者の共感を得られるような伝え方を試みさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 他者の発表を味わい、他者の考えを受けとめさせる。	・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointプリントなどを利用して説明する。 ・教材 教科書および副教材 ・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。	○ ○	【知識及び技能】 効果的なプレゼンテーションの方法が分かる。 【思考力、判断力、表現力等】 ビブリオバトルを行い、他者の共感を得られるような伝え方ができる。 【学びに向かう力、人間性等】 他者の発表を味わい、他者の考えを受けとめようとする。	○ ○ ○	3
	定期考査				○ ○	1
2 学 期	G 読解編4. 共に生きる「真の自立とは(鷲田清一)」 【知識及び技能】 「自立」とは何かについて筆者の考えを適切に読み取らせる。 【思考力、判断力、表現力等】 筆者の考えを踏まえ、自分の考えを表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 「自立」という問題について自身に引き付けて考える。	・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointプリントなどを利用して説明する。 ・教材 教科書および副教材 ・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。	○ ○ ○	【知識及び技能】 「自立」とは何かについて筆者の考えを適切に読み取れる。 【思考力、判断力、表現力等】 筆者の考えを踏まえ、自分の考えを表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 「自立」という問題について自身に引き付けて考えようとする。	○ ○ ○	8
	H 探求編3. 発想を広げて課題を見つける 【知識及び技能】 メディアを適切に使い分けながら、情報の収集を行わせる。 【思考力、判断力、表現力等】 自身で見つけた課題についての情報を、複数のメディアを適切に使い分けて取り扱わせる。 【学びに向かう力、人間性等】 身近なメディアの特性について興味をもって考える。	・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointプリントなどを利用して説明する。 ・教材 教科書および副教材 ・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。	○ ○	【知識及び技能】 メディアを適切に使い分けながら、情報の収集を行える。 【思考力、判断力、表現力等】 自身で見つけた課題についての情報を、複数のメディアを適切に使い分けて取り扱うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 身近なメディアの特性について興味をもって考えようとする。	○ ○ ○	5
	定期考査				○ ○	1
3 学 期	I 読解編5. 科学から見た人間「人工知能はなぜ椅子に座れないのか」 読解編6. 「〈私〉時代のデモクラシー」 【知識及び技能】 構成や展開を適切に読み取らせる。 【思考力、判断力、表現力等】 人間の特質や、人間を取り巻く時代の変化について考えさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 近代から現代、また現代起きている変化を見つめる。	・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointプリントなどを利用して説明する。 ・教材 教科書および副教材 ・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。	○ ○ ○	【知識及び技能】 構成や展開を適切に読み取れる。 【思考力、判断力、表現力等】 人間の特質や、人間を取り巻く時代の変化について考えを持てる。 【学びに向かう力、人間性等】 近代から現代、また現代起きている変化を見つめようとする。	○ ○ ○	11
	合計					58

高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 国語 科目 言語文化

教科：国語 科目：言語文化 単位数：3 単位

対象学年組：第1学年 1組～6組

教科担当者：（1組：樋口 康一郎）（2組：樋口 康一郎）（3組：樋口 康一郎）（4組：吉岡 哲）（5組：吉岡 哲）（6組：吉岡 哲）

使用教科書：（精選言語文化（東京書籍））

教科 国語 の目標：

- 【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- 【学びに向かう力、人間性等】 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 言語文化 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
我が国の言語について、必要な知識や技能を身につけているとともに、言語文化について、文化の継承、発展、創造を支えるという特質を理解し、適切に使う力を養う。	我が国の言語について、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に読み取り、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を解釈し、表現力や想像力を伸ばそうとしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に進んで関わろうとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
		話・聞	書	読					
A 古文入門 【知識及び技能】 歴史的仮名遣いと現代仮名遣い、動詞の活用の基礎を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 古文の人々の感情や考えを想像させる。 【学びに向かう力、人間性等】 説話の面白さを味わい、古文の世界に親しませる。	・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointプリントなどを利用して説明する。 ・教材 教科書および副教材 ・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。	○	○	○	【知識及び技能】 歴史的仮名遣いと現代仮名遣い、動詞の活用の基礎を理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 古文の人々の感情や考えを想像できる。 【学びに向かう力、人間性等】 説話の面白さを味わい、古文の世界に親しもうとする。	○	○	○	10
		B 現代文編2. 小説1「羅生門」 【知識及び技能】 近代小説の言い回しや語句を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 翻案元の古典作品と比較し、小説の主題について考えさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 小説に描かれた登場人物や情景、心情などに共感や興味を持たせる。	○	○	○	【知識及び技能】 近代小説の言い回しや語句を理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 翻案元の古典作品と比較し、小説の主題について考えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 小説に描かれた登場人物や情景、心情などに共感や興味を持たせようとする。	○	○	○
定期考査						○	○		1
C 古文編1. 古文入門「絵師良秀」 古文編2. 随筆「ある人、弓射ることを習ふに」 【知識及び技能】 用言の活用など古文の基礎を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 古典に描かれた人々の特異な様や共感できる様を共に味わわせる。 【学びに向かう力、人間性等】 説話・随筆の面白さを味わい、古文の世界に親しませる。	・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointプリントなどを利用して説明する。 ・教材 教科書および副教材 ・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。	○	○	○	【知識及び技能】 用言の活用など古文の基礎を理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 古典に描かれた人々の特異な様や共感できる様を共に味わうことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 説話・随筆の面白さを味わい、古文の世界に親しむ。	○	○	○	10
		B 漢文入門「訓読の基本」 【知識及び技能】 訓点や置き字、助動詞など、漢文の基礎を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 現代にも伝わる格言の内容を考えさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 漢文の世界に親しませる。	○	○	○	【知識及び技能】 訓点や置き字、助動詞など、漢文の基礎を理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 現代にも伝わる格言の内容を考えさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 漢文の世界に親しもうとする。	○	○	○
E 漢文編. 寓話2「虎の威を借る狐」 【知識及び技能】 再読文字や使役形など漢文の基礎を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 諸子百家の寓話が示すものについて考えさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 諸子百家の様々な思想に興味を持たせる。	・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointプリントなどを利用して説明する。 ・教材 教科書および副教材 ・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。	○	○	○	【知識及び技能】 再読文字や使役形など漢文の基礎を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 諸子百家の寓話が示すものについて考える。 【学びに向かう力、人間性等】 諸子百家の様々な思想に興味を持たせようとする。	○	○	○	6
		定期考査					○	○	

高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 地歴公民 科目 歴史総合

教科：地歴公民 科目：歴史総合 単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 1組～6組

教科担当者：（1組：疋田）（2組：中野）（3組：中野）（4組：中野）（5組：中野）（6組：中野）

使用教科書：（『詳解 歴史総合』東京書籍）

教科 地歴公民 の目標：

【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 歴史総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解し、調査や諸資料から様々な情報を適切に、そして効果的に調べまとめることができる。	地理や歴史に関わるできごとの意味、特色や相互の関係を、多面的に考えたり、社会のさまざまな課題の解決を考えたり、説明したり、議論したりできる。	地理や歴史に関わるさまざまな事項について、これらからつくる人間として、社会をよりよくしようとして課題を主体的に解決しようとする。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
A 「歴史の扉」 【知識及び技能】 歴史における資料の意味と日本や世界の歴史とのつながりの理解。 【思考力、判断力、表現力等】 近代化、大衆化、国際化などの考察・表現と資料の考察、表現。 【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会をめざした課題の主体的な追究。	・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。 ・教材 教科書および副教材 ・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。 ・適宜、グループワークを行う。	【知識・技能】 私たちの身近な例から、日本や世界の歴史とのつながりがわかる。歴史は資料に基づくものであると理解する。 【思考・判断・表現】 私たちの身近な例を近代化、大衆化、国際化などの変化と関わらせて、考察し、表現できる。資料の関係や変化に着目して、考察し、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする。	○	○	○	5
B 「近代化と私たち」1 【知識及び技能】 ・資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。 ・18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・近代化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。 ・18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・近代化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。	・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。 ・教材 教科書および副教材 ・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。 ・適宜、グループワークを行う。	B 「近代化と私たち」 【知識及び技能】 ・資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けてきた。 ・18世紀のアジアや日本における生産と流通、貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会を理解できたか。 【思考力、判断力、表現力等】 ・近代化に伴う生活や社会の変容について考察し、問題点を認識できるか。 ・18世紀のアジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりして、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・近代化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○	8
定期考査			○	○		1
1学期 「近代化と私たち」2 【知識及び技能】 産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、工業化と世界市場の形成を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・近代化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。	・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。 ・教材 教科書および副教材 ・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。 ・適宜、グループワークを行う。	【知識及び技能】 産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、工業化と世界市場の形成を理解できた。 【思考力、判断力、表現力等】 ・産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などを基に、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・近代化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○	6

	<p>「近代化と私たち」3</p> <p>【知識及び技能】・18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解している。</p> <p>【思考力・判断力・表現力等】・国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】・近代化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。</p>	<p>・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。</p> <p>・教材 教科書および副教材</p> <p>・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。</p> <p>・適宜、グループワークを行う。</p>	<p>【知識及び技能】・18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解できたか。</p> <p>【思考力・判断力・表現力等】・国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現できたか。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】・近代化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。</p>	○	○	○	7
定期考査				○	○		1
2学期	<p>「近代化と私たち」4</p> <p>【知識及び技能】・列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解している。</p> <p>【思考力・判断力・表現力等】・帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】・近代化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。</p>	<p>・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。</p> <p>・教材 教科書および副教材</p> <p>・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。</p> <p>・適宜、グループワークを行う。</p>	<p>【知識及び技能】・列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解できたか。</p> <p>【思考力・判断力・表現力等】・帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現できたか。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】・近代化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。</p>	○	○	○	8
2学期	<p>「国際秩序の変化や大衆化と私たち」</p> <p>【知識及び技能】・第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解している。</p> <p>【思考力・判断力・表現力等】・国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。・第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】・国際秩序の変化や大衆化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。</p>	<p>・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。</p> <p>・教材 教科書および副教材</p> <p>・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。</p> <p>・適宜、グループワークを行う。</p>	<p>【知識及び技能】・第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解できたか。</p> <p>【思考力・判断力・表現力等】・国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いをたてられる。・第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察して、表現できる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】・国際秩序の変化や大衆化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。</p>	○	○	○	6
定期考査				○	○		1
2学期	<p>「国際秩序の変化や大衆化と私たち」2</p> <p>【知識及び技能】・大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解している。</p> <p>【思考力・判断力・表現力等】・第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】・国際秩序の変化や大衆化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。</p>	<p>・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。</p> <p>・教材 教科書および副教材</p> <p>・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。</p> <p>・適宜、グループワークを行う。</p>	<p>【知識及び技能】・大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解できたか。</p> <p>【思考力・判断力・表現力等】・第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現できる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】・国際秩序の変化や大衆化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。</p>	○	○	○	6

高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 理科 科目 化学基礎

教科：理科

科目：化学基礎

単位数：2 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 6 組

教科担当者：（1組：吉廣由香）（2組：吉廣由香）（3組：吉廣由香）（4組：吉廣由香）（5組：吉廣由香）（6組：吉廣由香）

使用教科書：（啓林館 化学基礎）

教科 化学基礎 の目標：

【知識及び技能】観察、実験などを行い、化学の基本的な概念や原理・法則を理解する。

【思考力、判断力、表現力等】化学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、科学的な見方や考え方を養う。

【学びに向かう力、人間性等】日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行う。

科目 化学基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
観察、実験などを行い、化学の基本的な概念や原理・法則を理解する。	化学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、科学的な見方や考え方を養う。	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	<p>単元 物質の構成</p> <p>【知識及び技能】混合物の分離と抽出、単体と化合物の違い、熱運動と物質の三態を理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】物質を構成する元素の検出方法について、考えることができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】物質の分類や分離・精製法、物質の状態変化について調べようとする。</p>	<p>・指導事項</p> <p>物質の分類や混合物の分離・精製方法、また、物質をつくっている粒子の熱運動について指導する。</p> <p>・教材 同上</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】①混合物と純物質の違い、混合物の分離と抽出について、様々な手法がわかる。②元素の検出法や、単体と化合物の違いについてわかる。③粒子の熱運動と物質の三態についてわかる。</p> <p>【思考・判断・表現】①混合物と純物質の違いと、混合物の分離について考えることができる。②物質を構成する元素の検出方法について、考えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】①物質の性質を調べるために、物質の分類や分離・精製法、物質の状態変化について調べようとする。</p>	○	○	○	4
	<p>単元 物質の構成粒子</p> <p>【知識及び技能】原子の構造と電子配置、電子殻と価電子、イオン、周期表の周期律と元素の性質を理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】電子殻と電子配置、イオンの生成の仕組みを理解し考えることができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】原子の構造、原子番号と質量数、電子殻と電子配置、イオンの生成の関係を調べようとする。</p>	<p>・指導事項</p> <p>原子の構造や陽子、中性子、電子の性質、電子配置と周期律との関係を指導する。</p> <p>・教材 同上</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】①原子の構造と電子配置について考え、価電子が物質の性質に影響していることがわかる。②電子殻と価電子についてわかる。③イオンの生成とイオンについて理解し、価数をイオン式で表す方法がわかる。④周期表の周期律と元素の性質についてわかる。</p> <p>【思考・判断・表現】①原子番号と質量数の違いを、原子の構造と関連付けて考えることができる。②電子殻と電子配置について考えることができる。③イオンの生成の仕組みを理解し、イオン式と価数について考えることができる。④周期表において、元素の性質と周期律について考えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】①原子の構造、原子番号と質量数の関係を調べようとする。</p>	○	○	○	4
	<p>単元 化学結合</p> <p>【知識及び技能】イオン結合、共有結合と分子の極性、金属結合と代表的な金属、共有結合と高分子化合物、配位結合の仕組みと錯イオンについて理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】組成式を書き構成を考えることができる。配位結合の仕組みと錯イオンについて考えることができる。金属結合と金属の性質を考えることができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】原子の電子配置との関連が深い3種の化学結合について調べようとする。</p>	<p>・指導事項</p> <p>3種類の化学結合をとりあげ、それらの結合からなる物質が示す性質について指導する。</p> <p>・教材 同上</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】①イオン結合による物質の性質がわかる。②共有結合と分子の極性、電気陰性度による物質の性質の違いを理解し、分子間に働く力についてわかる。③共有結合の分子から出来ている様々な物質を調べ、代表的な高分子化合物についてわかる。④金属結合と代表的な金属についてわかる。</p> <p>【思考・判断・表現】①イオン結合とイオン結合でできた物質について、組成式を書いてその構成を考えることができる。②共有結合と高分子化合物を関連付け、配位結合の仕組みと錯イオンについて考えることができる。③金属結合と金属の性質とその性質が起こる仕組みを、電子の動きと関連付けて考えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】原子の電子配置との関連が深い3種の化学結合について調べようとする。</p>	○	○	○	12

			直との関連が深い種の化学結合について調べようとする。				
	定期考査			○	○		
2 学 期	単元 物質と化学反応式 【知識及び技能】アボガドロ数、モルの定義、溶液の成分表示、化学反応式と量的関係を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】気体や溶液の濃度の測定方法、物質量の表し方、化学変化と量的関係を考えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】原子や分子の質量の相対質量による表し方、物質量、化学変化における物質の量的関係を表す方法を調べようとする。	・指導事項 原子や分子の質量の簡単な表し方や粒子の数で表す物質の量の単位 mol、化学変化前後の物質の量的関係を指導する。 ・教材 同上 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】①アボガドロ数の意味と、モルの定義についてわかる。②溶液の成分の量を表す方法についてわかる。③化学変化を化学反応式によって考えることができる。④化学変化による物質の量的変化を考えることができる。 【思考・判断・表現】①粒子の量の表し方の原理を理解し、気体や溶液の濃度の測定方法について考えることができる。②アボガドロ数の意味や、モルによる物質量の表し方について考えることができる。③溶液の定義と性質について考えることができる。④化学変化と量的関係を化学反応式によって考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】①原子や分子の質量の相対質量による表し方、物質量、化学変化における物質の量的関係を表す方法を調べようとする。	○	○	○	20
	定期考査			○	○		
2 学 期	単元 酸と塩基 【知識及び技能】酸と塩基の性質、水の電離と pH の測定方法、中和滴定、塩の性質について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】酸と塩基の性質、水溶液の液性の強弱の仕組み、中和する反応、中和による塩の生成について考えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】酸と塩基の性質や反応について、酸と水素イオン、塩基と水酸化物イオンとの関係を調べようとする。	・指導事項 酸と塩基の性質や反応について学ぶ。 ・教材 同上 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】①酸と塩基の性質と価数がわかる。②水の電離と pH の測定方法についてわかる。③中和滴定による中和の量的関係についてわかる。④中和と塩、塩の性質についてわかる。 【思考・判断・表現】①酸と塩基の性質を、水素イオンと水酸化物イオンの価数に関連付けて考えることができる。②水の電離と pH の意味を理解し、水溶液の液性の強弱の仕組みを考えることができる。③酸と塩基が打ち消しあって、中和する反応を滴定曲線に描いて考えることができる。④中和によって、塩が生成されることを考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】①酸と塩基の性質や反応について、酸と水素イオン、塩基と水酸化物イオンとの関係を調べようとする。	○	○	○	16
	定期考査			○	○		
3 学 期	単元 酸化還元反応 【知識及び技能】酸化還元反応と電子の授受、酸化数、酸化剤と還元剤、金属のイオン化傾向と金属の反応性を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】酸化還元反応と電子の授受を酸化数により考える。酸化還元反応を酸化還元反応式にして考える。金属のイオン化傾向を金属の反応性に関連付けて考えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】代表的な化学反応の1つである酸化還元反応の仕組みを、酸化数と関連付けて理解し、その利用例について調べようとしている。	・指導事項 代表的な化学反応の1つである酸化還元反応のしくみや日常生活での利用例等指導する。 ・教材 同上 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】①酸化と還元の意味と酸化数の規則を理解し、酸化数を計算してわかる。②酸化剤と還元剤、酸化還元反応式について考え、主な酸化剤と還元剤の種類がわかる。③金属のイオン化傾向とイオン化列、金属の反応性と不動態の性質についてわかる。 【思考・判断・表現】①酸化反応と還元反応を電子の授受と関連付け、酸化数を計算して考えている。②主な酸化剤と還元剤をあげ、その役割と酸化還元反応を酸化還元反応式にして考えることができる。③金属のイオン化傾向をイオン化列に並べ、金属の反応性に関連付けて考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】①代表的な化学反応の1つである酸化還元反応の仕組みを、酸化数と関連付けて理解し、その利用例について調べようとしている。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		

教科の目標		自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験などを行うことを通して、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。	
科目の目標		生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。	
評価の観点	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力が育まれている。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が養われている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養われている。

学期	月	学習内容	学習活動・学習のねらい	評価規準(評価方法)	評価の観点 知識 思考 表現	記 時 数
第1学期	4	第1章 生物の特徴 1節 生物の多様性と共通性 ・生物の共通性と多様性をこの科目の導入に位置づけ、以降の学習においてこの視点を意識させて展開する。 ・原核細胞と真核細胞を学習する際に、両者の観察を行う。	・様々な生物の比較に基づいて、生物は多様でありながら共通性をもっていることを見いだして理解させる。 ・生物が共通性を保ちながら進化し多様化してきたこと、共通性は起源の共有に由来することを理解させる。 ・生物に共通する性質は細胞であることを理解させる。また、細胞にも原核細胞と真核細胞があることを細胞の内部構造とともに理解させる。	・生物の共通性と多様性について、すべての生物で細胞が共通の構造であることを理解している。 ・原核細胞と真核細胞の違いについて、それらの細胞に含まれる細胞小器官の違いとともに理解している。(定期考査) ・試料の採取、染色などを行い、光学顕微鏡で観察する技術を習得している。 ・資料や実験をもとに、生物に共通する性質を見だし表現することができる。 ・細胞が生物の基本構造であることを、生物学的な視点から考察することができる。(発問評価・課題提出) ・生物の共通性を、実験や観察を通して見だし、理解しようとする。 ・原核細胞と真核細胞について、その細胞に含まれる細胞小器官を基に、違いを理解しようとする。(発問評価・授業態度)	○ ○ ○ ○ ○	8
		2節 細胞とエネルギー ・時間がある場合は、酵素の基質特異性や最適条件、呼吸や光合成の反応の過程などにも触れる。 ・時間がある場合は、細胞の共通性に関連して、呼吸と光合成が行われる細胞小器官の起源についても触れる。	・生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解させる。その際、呼吸と光合成の概要を扱う。 ・代謝の反応が行われるときに、酵素がどのように関与しているのか理解させる。 ・光合成や呼吸がATPを合成する反応であることを理解させる。	・生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成から得ていることを理解している。 ・体内で行われる化学反応は、酵素が触媒していることを理解している。(定期考査) ・呼吸や光合成からエネルギーを得る方法を、関連づけて考察し、それを表現できる。 ・酵素を用いた実験から、酵素の作用と作用する物質の関係について結果を導き出すことができる。(発問評価・課題提出) ・グラフを使った実験から、酵素の作用と作用する物質の関係について結果を導き出すことができる。 ・資料に基づいて、生命活動にエネルギーが必要であることを理解しようとする。また、呼吸や光合成から得ていることを理解しようとする。 ・体内で行われる化学反応は、酵素が関わっていることを理解しようとする。(発問評価・授業態度)	○ ○ ○ ○ ○	6
	6	第2章 遺伝子とその働き 1節 遺伝情報とDNA ・時間がある場合は、DNAの分子構造や、染色体の構造についても触れる。 ・体細胞分裂の過程については、中学でも学習していることに留意する。 ・時間があれば、減数分裂時のDNA量の変化を体細胞分裂と比較して、違いを理解させる。	・DNAの構造や性質を、研究史を展開しながら理解させる。 ・DNA、遺伝子、ゲノムの関係性を理解させる。 ・DNAが体細胞分裂の際に、複製され質・量ともに均等に分配されることにより遺伝情報が伝えられることを理解させる。	・DNAが二重らせん構造であること、そのため、2本鎖の塩基配列は相補的であることを理解している。 ・ゲノム、遺伝子、染色体、DNAの関係を理解している。 ・体細胞分裂が行われる際に、遺伝情報の同一性が保たれることを理解している。 ・資料に基づき、DNAの構造を科学的に見だし理解しようとする。 ・DNAの複製と塩基配列と関連付けて説明することができる。(発問評価・課題提出)	○ ○ ○ ○ ○	8
		2節 遺伝情報とタンパク質の合成 ・時間がある場合は、アミノ酸の構造やタンパク質の立体構造についても触れる。 ・転写、翻訳の過程の詳細について、必要であれば触れる。また、その際、トリプレットとコドンの関係についても触れる。	・さまざまな生命現象にはタンパク質が関わっていることに触れ、それらタンパク質がDNAの遺伝情報に基づいて合成されることを理解させる。 ・DNAからタンパク質が合成される際には、転写・翻訳が行われることを理解させる。 ・すべての遺伝子が細胞内でつねに発現しているわけではないことを理解させる。	・DNAの塩基配列に基づいて、タンパク質が合成されることを理解しようとする。 ・遺伝子の発現について理解し、細胞ごとに特定の遺伝子が発現することを理解する。(定期考査) ・DNAの遺伝情報に基づいてタンパク質が合成される過程を体系的に考察し、表現できる。(発問評価・課題提出) ・DNAの塩基配列の情報に基づいて、タンパク質が合成されることを理解しようとする。(発問評価・授業態度)	○ ○ ○ ○ ○	6
	9	第3章 ヒトのからだの調節 1節 体内環境 ・体液の成分や血液循環、血液凝固に触れる。 ・腎臓が塩濃度調節や老廃物除去に関わること、肝臓の機能が体液調節に関わることに触れる。	・動物が体内環境をもち、外界からの影響を適切に調節していることを理解させる。 ・恒常性により、体内環境が保たれていることを理解させる。 ・体液を調節することで、体内環境が保たれていることを理解させる。	・体内環境の一定の範囲に保たれることの意味を理解している。 ・腎臓での塩濃度の調節や、肝臓での物質の合成・分解などのしくみを理解している。(定期考査) ・腎臓の働きについて体系的に理解し、ろ過・再吸収のしくみを説明することができる。(発問評価・課題提出) ・外界の環境が変化しても、体内環境は一定の範囲に保たれていることを理解しようとする。(発問評価・授業態度)	○ ○ ○ ○ ○	6
		2節 体内環境の維持のしくみ ・神経系については、中枢神経系と末梢神経系に分けられることを扱い、脳幹の働きに関連して脳死についても触れる。 ・内分泌系については、血液中に分泌されるホルモンが標的器官に情報を伝達することで調節が行われることを扱い、神経系に比べて持続的な調節が行われることにも触れる。	・体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見だし理解させる。 ・体内環境の調節に、神経系と内分泌系が関わっていることを理解させる。 ・体内環境の維持とホルモンの働きとの関係を見だし理解させる。	・神経やホルモンの働きにより体内環境が維持されることを理解している。 ・ホルモンの分泌により血糖濃度が保たれることを理解しており、ホルモンの分泌不足による発症する疾患についての知識を得ている。(定期考査) ・体の調節に関する観察、実験などを行い、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見だし理解することができる。 ・血糖濃度調節のしくみを、ホルモンと自律神経系の両方の働きから説明できる。 ・観察、実験に基づいて、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見だし、理解しようとする。 ・資料に基づいて、ヒトの血糖濃度が調節されるしくみを見だし、理解しようとする。(発問評価・授業態度)	○ ○ ○ ○ ○	6
11	3節 免疫 ・二次応答における記憶細胞の存在や、予防接種などの医療利用についても取り上げる。 ・身近な疾患として花粉症やエイズなどを取り上げる。	・ヒトには異物を排除する防御機構が備わっていることを見だし理解させる。 ・病原体の侵入を防ぐための、異物を認識し、排除するしくみを理解させる。 ・免疫のしくみの概要を取り上げ、体液性免疫や細胞性免疫について理解させる。	・病原体などの異物を認識・排除するしくみを理解している。 ・免疫の医療への応用やヒトの免疫疾患について理解している。(定期考査) ・二次応答における記憶細胞の存在や、予防接種などの医療利用についても取り上げる。 ・身近な疾患として花粉症やエイズなどを取り上げる。 ・病原体の侵入を認識・排除するしくみを理解しようとする。(発問評価・授業態度)	○ ○ ○ ○ ○	8	
	第4章 生物の多様性と生態系 1節 植生と形の成り立ち ・植物の環境形成作用が遷移の進行に影響すること、遷移の進み方はすべての植生で必ずしも同じではないことに留意させる。	・生物は環境からの影響を受けながら存在し、生態系には多様な生物が存在することを理解させる。 ・陸上には、草原や森林などのさまざまな植生があることを理解させる。 ・植生は不変ではなく、光の量や植生をとり巻く環境から影響を受けて変化していくことを理解させる。	・陸上には、森林・草原・砂漠などの多くの植生がみられ、植物をとり巻く環境や構成種により植生が変わっていくことを理解している。 ・植生の遷移についてその過程を理解している。 ・資料に基づいて、遷移の要因を見だし理解することができる。 ・植生の遷移が、光環境や土壌の変化によってどのように進むかを説明できる。(発問評価・課題提出) ・資料に基づいて、植生が変化する要因を見だし、その要因が植生にどのように影響するかを理解しようとする。(発問評価・授業態度)	○ ○ ○ ○ ○	6	
第3学期	1	2節 植生とバイオーム ・バイオームの定義についてはその構成要素に動物も含まれるが、生物基礎ではおもに植物で説明を行うことに留意する。	・気温や降水量の違いにより、地球上には多くのバイオームが成立していることを理解させる。 ・遷移の結果として森林・草原・荒原のバイオームとなることを理解させる。 ・バイオームの構成要素である植物種を取り上げ、その場所の気温や降水量に適応していることを理解させる。 ・日本のバイオームについても、その構成種とともに理解させる。	・地球上には、気温や降水量ごとにさまざまなバイオームが成立していることを理解している。(定期考査) ・気温や降水量に基づいて成立するバイオームが異なるのは、バイオームを構成する植物種がその場所の気温や降水量に適応しているためであると考察し、それを表現することができる。(発問評価・課題提出) ・地球上にはさまざまなバイオームが成立していることを理解しようとする。(発問評価・授業態度)	○ ○ ○ ○ ○	4
		3節 生態系と生物の多様性 4節 生態系のバランスと保全 ・生物の種多様性については捕食と被食を中心に扱い、生産者・消費者(分解者)について触れる。 ・人間活動の影響により、生物の多様性に変化がみられた例については、科学的なデータや根拠を示して、生態系の保全の重要性を理解させる。 ・生物の多様性の低下と関連させて、生物の絶滅についても扱う。	・生態系における生物の種多様性について理解させる。 ・生物の種多様性と生物間の関係性とを関連付けて理解させる。 ・捕食によって物質とエネルギーが移動することを理解させる。	・生態系内における種多様性、生物どうしのかわりあいについて理解している。 ・生態系のバランスや、生態系の保全の重要性について理解している。(定期考査) ・生態系と生物の多様性に関する観察、実験などから、生態系における生物の種多様性を見だし理解することができる。 ・生態系の保全の重要性について、生物の多様性の視点から考察することができる。 ・世界の環境問題について、情報や調査し、自分の考えをまとめ、表現することができる。 ・生物が多様であることを、食物網や間接効果と関連付けて理解しようとする。 ・生態系のバランスや、生態系を保全することが重要であることを理解しようとする。(発問評価・授業態度)	○ ○ ○ ○ ○	6

高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 芸術 科目 音楽 I

教科：芸術

科目：音楽 I

単位数：2 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 6 組

教科担当者：（1組：高野瀬） （2組：高野瀬） （3組：高野瀬） （4組：高野瀬） （5組：高野瀬） （6組：高野瀬）

使用教科書：MOUSA1（教育芸術社）

教科 芸術

の目標：

- 【知識及び技能】 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 音楽 I

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			評価規準	知	思	態	配当 時数
		歌	器	創					
A 曲にふさわしい発声で表情豊かに歌おう 【知識及び技能】 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体を使い方などに留意して歌い、表現に必要な技能を身に付ける 【思考力、判断力、表現力等】 歌ったり互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解する 【学びに向かう力、人間性等】 イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫しようとする	・指導事項 曲にふさわしい発声などの技能を身に付けるとともに、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解し、表現を工夫して表情豊かに歌う ・教材 ヴォイストレーニング 0 sole mio ・一人1台端末の活用 等 構成や形式の確認 読譜の補助	○			【知識及び技能】 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体を使い方などに留意して歌い、表現に必要な技能を身に付けている 【思考力、判断力、表現力等】 歌ったり互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解している 【学びに向かう力、人間性等】 イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫している	○	○	○	8
B ボディー・パーカッションに挑戦しよう 【知識及び技能】 リズムを正確に捉えるとともに、その合いやつながりを意識して演奏する 【思考力、判断力、表現力等】 曲想に合った音色や奏法、パフォーマンスなどの技能を身に付け、表現を工夫する 【学びに向かう力、人間性等】 共通のイメージをもって、曲の特徴を生かした表現ができるよう試行錯誤したり意見交換したりしながら演奏する	・指導事項 曲想と音色や奏法との関わりを理解し、曲にふさわしい奏法、身体を使い方などの技能を身に付けるとともに、他者と協働しながらイメージをもって表現を工夫して演奏する ・教材 クラッピング・カルテット ・一人1台端末の活用 等 構成や形式の確認 読譜の補助		○		【知識及び技能】 リズムを正確に捉えるとともに、その重なり合いやつながりを意識して演奏できる 【思考力、判断力、表現力等】 曲想に合った音色や奏法、パフォーマンスなどの技能を身に付け、表現を工夫できる 【学びに向かう力、人間性等】 共通のイメージをもって、曲の特徴を生かした表現ができるよう試行錯誤したり意見交換したりしながら演奏している	○	○	○	8
C J-POPや歌謡曲の特徴を理解して歌おう 【知識及び技能】 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的背景との関わりを理解する 【思考力、判断力、表現力等】 イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫する 【学びに向かう力、人間性等】 曲について調べたり意見交換したりして曲想と音楽の構造や歌詞、文化的背景との関わりを理解するとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値を考える	・指導事項 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的背景との関わりを理解し、曲にふさわしい歌唱表現の技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して歌うとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値を考える ・教材 Lemon 負けないで ・一人1台端末の活用 等 構成や形式の確認 読譜の補助	○		○	【知識及び技能】 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的背景との関わりを理解している 【思考力、判断力、表現力等】 イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫できる 【学びに向かう力、人間性等】 曲について調べたり意見交換したりして曲想と音楽の構造や歌詞、文化的背景との関わりを理解するとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値を考えることができる	○	○	○	8
D 表現を工夫してギター演奏しよう 【知識及び技能】 曲にふさわしい奏法、身体を使い方などに留意して演奏し、表現に必要な技能を身に付ける 【思考力、判断力、表現力等】 演奏したり互いに聴き合ったりしながら、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解する 【学びに向かう力、人間性等】 イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫する	・指導事項 曲想とギターの音色や奏法との関わりを理解し、曲にふさわしい奏法、身体を使い方などの技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して演奏する ・教材 日曜日よりの使者 第三の男のテーマ ・一人1台端末の活用 等 構成や形式の確認 読譜の補助		○		【知識及び技能】 曲にふさわしい奏法、身体を使い方などに留意して演奏し、表現に必要な技能を身に付けている 【思考力、判断力、表現力等】 演奏したり互いに聴き合ったりしながら、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解している 【学びに向かう力、人間性等】 イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫している	○	○	○	8
E 「コード進行」をもとにメロディーをつくらう	・指導事項 音のつなげ方やフレーズのまとま				【知識及び技能】 反復、変化などの手法を用いてメロディーを				

	<p>【知識及び技能】 反復、変化などの手法を用いてメロディーをつくったり、つくったメロディーにもう一つのメロディーを重ねたりする技能を身に付ける 【思考力、判断力、表現力等】 コードの構成音をもとに音の組み合わせ方やつなげ方を試しながら、自分の表したいイメージに合うメロディーをつくる 【学びに向かう力、人間性等】 イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫する</p>	<p>り、重なりによる響きを理解し、反復、変化などの手法を活用してメロディーをつくる技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して創作する ・教材 「『コード進行』をもとにメロディーをつくらう」 「コード・ネーム」 ・一人1台端末の活用 等 ガレージバンドを用いた創作</p>			<p>つくったり、つくったメロディーにもう一つのメロディーを重ねたりする技能を身に付けている 【思考力、判断力、表現力等】 コードの構成音をもとに音の組み合わせ方やつなげ方を試しながら、自分の表したいイメージに合うメロディーをつくることのできる 【学びに向かう力、人間性等】 イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫している</p>				10
2 学 期	<p>F 能や謡に親しもう 【知識及び技能】 能を鑑賞したり能について調べたりしながら、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解する 【思考力、判断力、表現力等】 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体を使い方などに留意して謡い、表現に必要な技能を身に付ける 【学びに向かう力、人間性等】 身に付けた技能を用いて積極的に謡に挑戦する</p>	<p>・指導事項 能の音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わり、言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりを理解し、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体を使い方などの技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して謡う ・教材 歌唱：《高砂》/《羽衣》 鑑賞：能《道成寺》/「舞台芸術」 ・一人1台端末の活用 等 鑑賞の補助</p>			<p>【知識及び技能】 能を鑑賞したり能について調べたりしながら、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解している 【思考力、判断力、表現力等】 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体を使い方などに留意して謡い、表現に必要な技能を身に付けている 【学びに向かう力、人間性等】 身に付けた技能を用いて積極的に謡に挑戦している</p>				6
	<p>F 音楽を形づくっている要素に注目して、曲のよさや美しさを探ろう 【知識及び技能】 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を覚悟し、それらの働きに注目しながら鑑賞する 【思考力、判断力、表現力等】 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて意見交換し理解を深める 【学びに向かう力、人間性等】 曲や演奏に対する評価とその根拠を述べ合う</p>	<p>・指導事項 音楽を形づくっている要素やそれらの働きに注目しながら曲を聴き、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、根拠をもって曲や演奏を批評する ・教材 「音楽を織りなすさまざまな要素」/組曲《動物の謝肉祭》交響曲第9番《合唱付き》から第4楽章/バレエ音楽《火の鳥》組曲/「西洋音楽の流れ」 「オーケストラを知ろう」 ・一人1台端末の活用 等 鑑賞の補助</p>			<p>【知識及び技能】 能を鑑賞したり能について調べたりしながら、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解している 【思考力、判断力、表現力等】 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体を使い方などに留意して謡い、表現に必要な技能を身に付けている 【学びに向かう力、人間性等】 身に付けた技能を用いて積極的に謡に挑戦している</p>				6
	<p>G 日本や諸外国の歌曲に親しみ、表現を工夫して独唱しよう 【知識及び技能】 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体を使い方などに留意して歌い、表現に必要な技能を身に付ける 【思考力、判断力、表現力等】 イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫する 【学びに向かう力、人間性等】 歌ったり互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりを理解しようとする</p>	<p>・指導事項 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりを理解し、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体を使い方などの技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して歌う ・教材 むこうむこう/この道 「日本語と旋律」/「詩の心を大切に歌おう」/「日本語の歌詞の歌い方」/Caro mio ben 「Caro mio ben 大解剖」 Heidenröslein(シューベルト/ヴェルナー)/Ich liebe dich オー・シャンゼリゼ ・一人1台端末の活用 等 鑑賞の補助 読譜の補助</p>			<p>【知識及び技能】 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体を使い方などに留意して歌い、表現に必要な技能を身に付けている 【思考力、判断力、表現力等】 イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫している 【学びに向かう力、人間性等】 歌ったり互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりを理解しようとしている</p>				8
3 学 期	<p>H ささまざまな器楽アンサンブルを楽しもう 【知識及び技能】 一人一人が主体性を発揮しながら、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付ける 【思考力、判断力、表現力等】 各パートの役割を理解するとともに、全体の響きやハーモニーをイメージしながら演奏する 共通のイメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫する 【学びに向かう力、人間性等】 互いに協働しながらアンサンブルを作り上げる</p>	<p>・指導事項 器楽アンサンブルによる表現の特徴を理解し、それを生かして演奏したり、他者との調和を意識して演奏したりする技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して演奏する ・教材 ミッション：インボッシブ のテーマ タイムマシンにおねがい 星に願いを ・一人1台端末の活用 等 鑑賞の補助 読譜の補助 楽器として活用</p>			<p>【知識及び技能】 一人一人が主体性を発揮しながら、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付けている 【思考力、判断力、表現力等】 各パートの役割を理解するとともに、全体の響きやハーモニーをイメージしながら演奏できる 共通のイメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫できる 【学びに向かう力、人間性等】 互いに協働しながらアンサンブルを作り上げている</p>				8

高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 芸術 科目 美術 I

教科： 芸術 科目： 美術 I 単位数： 2 単位
 対象学年組： 第 1 学年 組～ 6 組
 教科担当者： (1組：富田) (2組：富田) (3組：富田) (4組：富田) (5組：富田) (6組：富田)
 使用教科書： (高等学校 美術 I (光村図書))

教科 芸術 の目標：
 【知識及び技能】 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。
 【思考力、判断力、表現力等】 創造的表現を身に付けるよう、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるとする。
 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
主題を効果的に表現するために表現形式の特性を生かし、形体、色彩、構成などを工夫し、材料や用具を活用し、創造的に表現できる。	感性や想像力を働かせて、対象のよさや美しさを捉え、表現形式や方法、造形の要素、材料や用具などについての体験的理解を基に、自己の表現意図に合った方法を創意工夫し、創造的に表現を構想できる。	創造活動の豊かな美的体験を通して、これからの社会をよりよくする課題を主体的に解決しようとする。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
		絵 ・ 彫	デ 映	鑑 賞						
1 学 期	A 鉛筆デッサン 【知識及び技能】 対象モチーフにふさわしい鉛筆の技法に留意して描き、描画表現に必要な技能を身に付ける 【思考力、判断力、表現力等】 対象モチーフの良さを感性や想像力を働かせて捉え、配置や構図を工夫して表現する方法を理解する 【学びに向かう力、人間性等】 想像力をもって、対象モチーフが持つ美しさや特徴を理解し、その要素を試行錯誤しながら描画する工夫をしようとする	・指導事項 鉛筆の削り方と基礎的なデッサン習得し、鉛筆による様々な描画表現を身に付けるとともに、対象モチーフの質感や形の良さを理解し、画面に表現する ・教材 高校美術 I 光村図書 プリント 一人1台端末の活用 等 鉛筆の削り方の動画を教科書のQRコードから読み取り確認する 資料探し	○		○					12
	B 平面構成 【知識及び技能】 「色相・明度・彩度」等の基礎的な色彩の理論をとアクリル絵の具の技法を学び、様々な感覚を色彩で表現するために必要な技能を身に付ける 【思考力、判断力、表現力等】 感情を色彩で表すというテーマにふさわしい配色や構図を考え、デザインに結び付けて表現する方法を理解する 【学びに向かう力、人間性等】 平面構成の制作を通じてデザインとは何かを考えながら構想を練り、試行錯誤しながら表現する工夫をしようとする	・指導事項 基礎的な色彩理論を学び、アクリル絵の具による様々な表現を身に付けるとともに、デザインすることで画面に表現する ・教材 高校美術 I 光村図書 プリント 一人1台端末の活用 等 絵具についての動画を教科書のQRコードから読み取り確認する 資料探し		○						12

年間授業計画

高等学校 令和 7 年度 1 学年

科： 外国語科目： 英語コミュニケーション1

3単位

教科： 外国語（英語）

科目： 英語コミュニケーション1

対象学年・組： 第1学年

1組～6組

教科担当者：（1組）川裕一（2組）川裕一（3組）川裕一（4組）藤貴子（5組）藤貴子（6組）藤貴子

使用教科書： EARTHRISE English Logic and Expression 1 Standard

教科（外国語（英語））の目標：

- ①知識及び技能： 外国語で読む、書く、聞く、話すの4技能を中心とした統合的な言語活動を行うことができる。
- ②思考力、判断力、表現力等： 論理の構成や展開を考察して的確に把握でき、情報や考えをまとめて論理的に表現できる。
- ③学びに向かう力、人間性等： コミュニケーションの技能を磨き論理的思考を習得するために積極的な姿勢で学習できる。

科目 英語コミュニケーション1 の目標

①知識及び技能	②思考力、判断力、表現等	③学びに向かう力、人間性等
教科書で学んだ文章を理解できる。題材についての発話を聞き取ることができる。日常的・基本的な言語活動を行うことができる。	教科書で学んだ文法・語彙の知識を応用し、個人情報や身近な人の情報、買い物、地元の地理などについて、情報交換や発表ができる。	教科書を予習することにより積極的に授業に参加し、復習や課題によって自己の学習を調整し言語の習得に粘り強く取り組む。

月	L	学習指導要領の内	レッスンを別CAN-DO	コーナー	題材・場面・言語活動・言語材料	主な領域					評価の観点			配当					
						L	R	Sや	S発	W	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む						
4	Lesson 1 The Blue White Shirt	(1)アイウエ (2)アイウ (3)①アイ(ア)ウ(ア)エ(ア)カ(ア)	●和製英語について、理解して考えを深めることができる。 ●和製英語などについて、意見を交換したり、書いて伝えたりすることができる。 [L] 和製英語をめぐる誤解についての対話の概要や要点、必要な情報を、写真を参考にしながら聞き取ることができる。 [R] 和製英語に関する英語話者の体験談を読み、概要や要点を把握することができる。 [Sや] 和製英語の例とその適切な英訳などについて、基本的な語句や文を用いて、与えられた表現を参考に自分の考えを話して伝え合うことができる。 [W] 和製英語の長所または短所について、グループで話し合った内容を基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考えを書いて伝えることができる。	屏 Take a Moment to Think What's the Topic? Information Section 1'3 本文 Your Reaction 課末 Wrap It Up! Give It a Try! Grammar for Communication Another Point of View	英語学習や写真の中のカタカナ語などについて話し合う。 和製英語に関する英語話者の体験談について説明するモノローグの概要や要点を聞き取り、聞き取った内容を伝え合う。 漢字とカタカナ語に関するグラフを見て、読み取ったことや考えたことについて話し合う。 和製英語に関する英語話者の体験談から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。 和製英語などについて意見や情報を交換する。 和製英語に関する英語話者の体験談について、概要や要点を表に書いて整理したりしながら、書いてまとめる。 和製英語をめぐる誤解についての対話から、概要や詳細を聞き取る。 和製英語の例とその適切な英訳について、情報や意見を交換する。 和製英語の長所または短所について、グループで話し合った内容を基に、情報や考えを書く。 不定詞、動名詞を使って、自分の考えや行動について書く。 さまざまな国や文化におけるジェスチャーについて、概要を聞き取ったり読み取ったりする。 写真で示されたジェスチャーについて、自分自身の考えなどを伝え合う。	L R Sや S発 W	[知識] 不定詞、動名詞、文の構造に関する事項を理解している。 体験談の中で使われている表現の意味や働きを理解している。 [技能] [L] 和製英語をめぐる誤解についての対話の中の相づちをうつつ表現や話の展開に注意しながら、対話を聞き取る技能を身に付けている。 [R] 和製英語に関する英語話者の体験談について、不定詞、動名詞や本文中で使われている表現に留意して、読み取る技能を身に付けている。 [Sや] 和製英語の例とその適切な英訳について、基本的な語句や文を用いて、考えを話して伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。 [W] 和製英語の長所または短所について、グループで話し合った内容を基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考えを書いて伝えている。 [知識] 現在完了、現在完了進行形、助動詞に関する事項を理解している。 本文中で使われている表現の意味や働きを理解している。 [技能] [L] 部屋の整理整頓について、対話の中での両者の考え方や片づけに注意しながら、対話を聞き取る技能を身に付けている。 [R] 近藤麻理恵さんの生き方や片づけに関する考え方について、現在完了、現在完了進行形、助動詞や本文中で使われている表現に留意して、読み取る技能を身に付けている。	[L] 和製英語をめぐる誤解についての対話の概要や要点、必要な情報を、写真を参考にしながら主体的に聞き取って捉えようとしている。 [R] 和製英語について理解を深めるために、和製英語に関する英語話者の体験談を主体的に読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 [Sや] 和製英語の例とその適切な英訳について、基本的な語句や文を用いて、主体的に考えを話して伝えたり、相手からの質問に答えようとしていたりしている。 [W] 和製英語の長所または短所について、グループで話し合った内容を基に、基本的な語句や文を用いて、主体的に情報や考えを書いて伝えようとしている。	6										
										4-5	Lesson 2 Does It Spark Joy?	(1)アイウエ (2)アイウ (3)①アイ(ア)ウ(ア)エ(ア)カ(ア)	●片づけの専門家・近藤麻理恵さんの生き方や片づけに関する考え方について、理解して考えを深めることができる。 ●片づけに関する自身の経験や考え方、自分自身がときめくものなどについて、意見を交換したり、書いて伝えたりすることができる。 [L] 部屋の整理整頓についての対話の概要や要点、必要な情報を、写真を参考にしながら聞き取ることができる。 [R] 近藤麻理恵さんの生き方や片づけに	屏 Take a Moment to Think What's the Topic? Information Section 1'4 本文 Your Reaction	部屋の掃除や整理整頓などについて話し合う。 近藤麻理恵さんについて説明するモノローグの概要や要点を聞き取り、聞き取った内容を伝え合う。 近藤麻理恵さんの経歴や著書のタイトルを見て、考えたことについて話し合う。 近藤麻理恵さんの生き方や片づけに関する考え方について、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。 片づけに関する自身の経験や考え方について意見を交換したり、書いたりする。	L R Sや S発 W	[知識] 現在完了、現在完了進行形、助動詞に関する事項を理解している。 本文中で使われている表現の意味や働きを理解している。 [技能] [L] 部屋の整理整頓について、対話の中での両者の考え方や片づけに注意しながら、対話を聞き取る技能を身に付けている。 [R] 近藤麻理恵さんの生き方や片づけに関する考え方について、現在完了、現在完了進行形、助動詞や本文中で使われている表現に留意して、読み取る技能を身に付けている。	[L] 部屋の整理整頓についての対話の概要や要点、必要な情報を、写真を参考にしながら主体的に聞き取って捉えようとしている。 [R] 片づけや部屋の整理整頓について、理解を深めるために、近藤麻理恵さんの生き方や片づけに関する考え方を主体的に読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 [Sや] 片づけに関する自身の経験や考え方、自分自身がときめくものについて、基本的な語句や文を用いて、考えを話して伝えたり、相手からの質問に答えたり	7

			<p>土偶の表情から想像し読み取ったことについて、考えを書く。</p> <p>土偶の表情から想像し読み取ったことについて、書いた内容を基に 発表する</p> <p>Grammar for Communication 過去完了、過去完了進行形、関係代名詞what、S+V+O (O=疑問詞/if節) 使って、状況に応じた会話をおこなったり、縄文時代についてさらに知りたいことについて話し合ったりする</p> <p>Another Point of View 縄文テーマパークのパンフレットについて、概要を聞き取ったり読み取ったりする。</p> <p>関心があるワークショップについて意見を交換しながら、グループで日帰り用の旅程表を作成する。</p>							<p>春ついでと、土偶などについて、過去完了、過去完了進行形、関係代名詞what、S+V+O (O=疑問詞/if節) やプレゼンテーションの中で使われている表現に留意して、読み取る技能を身に付けている。</p> <p>[Sヤ] 縄文時代の人々の暮らしや土器、土偶などについて、自分の意見を述べる表現などを用いて、円滑に意見を交換する技能を身に付けている。</p> <p>[W] 縄文人へ尋ねてみたいことや土偶の表情から想像し読み取ったことなどについて、考</p>	<p>話を伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。</p> <p>[W] 縄文人へ尋ねてみたいことや、土偶の表情から想像し読み取ったことなどについて、基本的な語句や文を用いて、考えを書いて伝えている。</p> <p>[S発] 土偶の表情から想像し読み取ったことについて、書いた内容を基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考えを発表して伝えている。</p>	<p>[W] 縄文人へ尋ねてみたいことや、土偶の表情から想像し読み取ったことなどについて、基本的な語句や文を用いて、主体的に考えを書いて伝えようとしている。</p> <p>[S発] 土偶の表情から想像し読み取ったことについて、書いた内容を基に、基本的な語句や文を用いて、主体的に情報や</p>
9	Lesson 5 Roots & Shoots	<p>(1)アイウエ</p> <p>(2)アイウ</p> <p>(3)①アイ(ア)(イ)ウ(ア)(イ)エ(ア)(イ)オ(ア)(イ)カ(ア)(イ)</p> <p>●人間と動物の共生や環境保護に関するジェーン・グドール博士の考えについて、理解して考えを深めることができる。</p> <p>●人間と動物の共生や環境保護などについて、意見を交換したり、書いて伝えたりすることができる。</p> <p>[L] 北海道のツル保護を支えた人物についての対話の概要や要点、必要な情報を、写真を参考にしながら聞き取ることができる。</p> <p>[R] 人間と動物の共生や環境保護に関するグドール博士へのインタビューを読み、概要や要点を把握することができる。</p> <p>[Sヤ] 人間と動物の共生や環境保護などについて、基本的な語句や文を用いて、自分の考えを話して伝え合うことができる。</p> <p>[W] グドール博士へ尋ねてみたいことや、参加してみたいルーツアンドシューズの活動などについて、基本的な語句や文を用いて、考えを書いて伝えることができる。</p> <p>[S発] 参加してみたい</p>	<p>扉</p> <p>Take a Moment to Think 飼っているペットやチンパンジーについて知っていることなどについて話し合う。</p> <p>What's the Topic? グドール博士について紹介するモノログの概要や要点を聞き取り、聞き取った内容を伝え合う。</p> <p>Information チンパンジーの生態に関する表や地図から読み取ったことについて話し合う。</p> <p>Section 1'4 本文 人間と動物の共生や環境保護に関するグドール博士へのインタビューについて、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。</p> <p>Your Reaction 人間と動物の共生や環境保護、グドール博士へ尋ねてみたいことなどについて、考えや意見を交換したり書いたりする。</p> <p>課末 Wrap It Up! 人間と動物の共生や環境保護に関するグドール博士へのインタビューについて、概要や要点を表に書いて整理したりしながら、書いてまとめる。</p> <p>Give It a Try! 北海道のツル保護を支えた人物についての対話から、概要や詳細を聞き取る。</p> <p>参加してみたいルーツアンドシューズの活動について、考えを書く。</p> <p>参加してみたいルーツアンドシューズの活動について、書いた内容を基に、発表する。</p> <p>Grammar for Communication 分詞構文、It～that…、同格の構文を使って、昨日の放課後のできごとを伝え合ったり、自分の考えや経験について、書いたり話し合ったりする。</p> <p>Another Point of View グドール博士から高校生へ宛てた手紙について、概要を聞き取ったり読み取ったりする。</p> <p>グドール博士からの手紙について、印象に残った部分について意見を交換しながら、グドール博士へ手紙を書く。</p>						<p>[知識] 分詞構文、It～that…、同格の構文に関する事項を理解している。</p> <p>インタビューの中で使われている表現の意味や働きを理解している。</p> <p>[技能] [L] 北海道のツル保護を支えた人物について、対話の中の話題の展開に注意しながら、対話を聞き取る技能を身に付けている。</p> <p>[R] 人間と動物の共生や環境保護に関するグドール博士へのインタビューについて、基本的な語句や文を用いて、考えを話して伝えたり、相手からの質問に答えようとしている。</p> <p>[W] グドール博士へ尋ねてみたいことや、参加してみたいルーツアンドシューズの活動などについて、基本的な語句や文を用いて、考えを書いて伝えている。</p> <p>[Sヤ] 人間と動物の共生や環境保護などについて、自分の意見を述べる表現などを用いて、円滑に意見を交換する技能を身に付けている。</p> <p>[S発] 参加してみたいルーツアンドシューズの活動について、書いた内容を基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考えを発表して伝えている。</p> <p>[S発] 参加してみたいルーツアンドシューズの活動について、書いたことを基に、考えを</p>	<p>[L] 北海道のツル保護を支えた人物についての対話の概要や要点、必要な情報を、写真を参考にしながら聞き取って捉えようとしている。</p> <p>[R] 人間と動物の共生や環境保護について、理解を深めるために、インタビューの内容を主体的に読み取り、概要や要点を把握しようとしている。</p> <p>[Sヤ] 人間と動物の共生や環境保護などについて、基本的な語句や文を用いて、主体的に考えを話して伝えたり、相手からの質問に答えようとしている。</p> <p>[W] グドール博士へ尋ねてみたいことや、参加してみたいルーツアンドシューズの活動などについて、基本的な語句や文を用いて、主体的に考えを書いて伝えようとしている。</p> <p>[S発] 参加してみたいルーツアンドシューズの活動について、書いた内容を基に、基本的な語句や文を用いて、主体的に情報や考えを発表して伝えようとしている。</p>	7	
10	Lesson 6 You and Your Smartphone—Who's in Charge?	<p>(1)アイウエ</p> <p>(2)アイウ</p> <p>(3)①アイ(ア)(イ)ウ(ア)(イ)エ(ア)(イ)オ(ア)(イ)カ(ア)</p> <p>●スマートフォンの使用に関するよい点と問題点について、理解して考えを深めることができる。</p> <p>●スマートフォンの使用に関するよい点と問題点などについて、意見を交換したり、書いて伝えたりすることができる。</p> <p>[L] アメリカの子ども</p>	<p>扉</p> <p>Take a Moment to Think スマートフォンのよい点、悪い点などについて、話し合う。</p> <p>What's the Topic? スマートフォンの使用について注意を喚起するモノログの概要や要点を聞き取り、聞き取った内容を伝え合う。</p> <p>Information 高校生が普段スマートフォンを使ってなにをしているかを表したグラフを見て、読み取った内容や自分の経験について話し合う。</p> <p>Section 1'4 本文 スマートフォンの使用に関するよい点と問題点について、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。</p>					<p>[知識] 関係副詞、S+V+O+C (C=原形不定詞/分詞) に関する事項を理解している。</p> <p>本文中で使われている表現の意味や働きを理解している。</p> <p>[技能] [L] アメリカの子どもたちの自由時間の使い方について、対話の概要や要点、必要な情報を、グラフを参考にしながら聞き取って捉えている。</p> <p>[R] スマートフォンの使用に関するよい点と問題点について、理解を深めるために、スマートフォ</p>	<p>[L] アメリカの子どもたちの自由時間の使い方についての対話の概要や要点、必要な情報を、グラフを参考にしながら主体的に聞き取って捉えようとしている。</p> <p>[R] スマートフォンの使用に関するよい点と問題点について、理解を深めるために、スマートフォ</p>	7		

年間授業計画

高等学校 令和 7 年度

1 学年

教科： 外国語（英語）

科目： 論理表現1

3 単位

教科： 外国語（英語） 科目： 論理表現1

対象学年・組： 第1学年 1組～6組

教科担当者：（1組 後藤貴子 ）（2組 後藤貴子 ）（3組 入江彰 ）（4組 入江彰 ）（5組 入江彰 ）（6組 入江彰 ）

使用教科書： EARTHRISE English Logic and Expression 1 Standard

教科（外国語（英語））の目標：

- ①知識及び技能： 外国語で読む、書く、聞く、話すの4技能を中心とした統合的な言語活動を行うことができる。
- ②思考力、判断力、表現力等 論理の構成や展開を考察して的確に把握でき、情報や考えをまとめて論理的に表現できる。
- ③学びに向かう力、人間性等 コミュニケーションの技能を磨き論理的思考を習得するために積極的な姿勢で学習できる。

科目 論理表現1 の目標

①知識及び技能	②思考力、判断力、表現等	③学びに向かう力、人間性等
教科書で学んだ文法・語法を十分に理解している。平易な発話を聞き取り要点を理解できる。伝達可能な発音ができる。	教科書で学んだ知識を元に日常的・基本的な発話を聞き取り要点を理解できる。直接的関係がある領域についての英文作ができる。	教科書を予習することにより積極的に授業に参加し、復習や課題によって言語の習得に前向きに取り組む。

	単元の具体的な指導目標	領域				評価規準	目標			配当時間
		聞くこと	読むこと	話すこと	書くこと		①	②	③	
1 学期	Lesson 1～4 文型 時制 助動詞	○	○	やり取り ○	○	聞くこと：日常的・基本的な会話や短いモノローグを聞いて、要点を捉えることができる。直接的関係がある領域であればスピーチの概要を捉えることができる。 読むこと：教科書の文章の要点を捉えることができ、英和辞典を参照すれば適切に読み取ることができる。教科書と関連のあるの平易な文章を、理解することができる。	○	○	○	36
	1 学期定期考査	○	○		○		○	○		
2 学期	Lesson 5～8 態 準動詞 関係詞	○	○	やり取り ○	○	話すこと（やり取り）：自分や身近な人の情報、買い物、地元の地理などについて、情報交換ができる。直接的関係がある領域については質問に適切に応答できる。 話すこと（発表）：自分や身近な人の情報、買い物、地元の地理など、直接的関係がある領域については描写することができ、準備をしてスピーチで発表することができる。	○	○	○	42
	2 学期定期考査	○	○		○		○	○		
3 学期	Lesson 9～10 比較 仮定法	○	○	やり取り ○	○	聞くこと：教科書で学んだ文法や語彙を正しく使用し、直接的関係がある領域について単純で直接的な英文を作ることができる。 (CAN-DOリストによる)	○	○	○	24
	学年末考査	○	○		○		○	○		
							配当時間合計		105	

年間授業計画

高等学校 令和7年度(1学年用) 教科:情報 科目:情報 I

教科:情報 科目:情報 I 単位数:2単位

対象学年組:第1学年 1組~6組

教科担当者:(1組:窪寺)(2組:窪寺)(3組:窪寺)(4組:窪寺)(5組:窪寺)(6組:窪寺)

使用教科書:高等学校情報 I (数研出版)

教科(情報)の目標:

【知識及び技能】情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

科目(情報 I)の目標:

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身に付けているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

学習内容	指導目標(学習のねらい)	配当時間	備考(実習や指導上の留意点)
------	--------------	------	----------------

1 学 期	第1編 情報社会の問題解決			
	第1章 情報とメディア A 情報とは何か B 情報源と情報の検証 C 情報とメディアの特性 D 問題解決のプロセス	・何気なく使っている言葉である「情報」とは何かを理解させる。 ・様々なメディアの特徴や、情報の適切な表現形式について理解させる。 ・情報や情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付けさせる。 ・問題解決の目的や状況に応じて、情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決する方法について考えさせる。	4	・クロスチェックの重要性を理解させる。 ・情報の表現形式の変換により、失われたりつけ加わったりする情報があることについて、写真から文章への変換などの事例を挙げて考えさせる。 ・問題解決のプロセスを理解させる。 ・巻末実習2を活用し、問題解決の方法を学習させる。 ・問題解決では、具体的な改善案を考えさせる活動を取り入れる。その際、問題解決の過程や解決後に、評価・改善する
	第2章 情報社会における法とセキュリティ A 情報社会と法規・制度 B 個人情報の適正な利活用と保護 C 知的財産権 D 情報セキュリティ E 情報セキュリティ対策のための技	・情報社会でよりよく生きるために、情報に関する法規・制度や情報社会における個人の責任、情報モラルにもとづいた行動について理解させる。 ・個人情報やプライバシーの保護・活用に	7	・巻末実習1を行い、情報モラルの問題について話しあいを行わせる。 ・知的財産権にかかわる実際の事例を調べさせるなど、具体的な事例を通して理解させる。
第3章 情報技術が社会に及ぼす影響 A 情報技術の発展の光と影 B 情報技術の適切な活用	・人工知能やデジタルトランスフォーメーションなど、発展する情報技術と情報技術がもたらす社会の変化や経済の効率化について理解させる。 ・情報格差、インターネット依存症、インターネット上のトラブルなどを学び、情報技術の適切な活用について理解させる。 ・情報や情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考えさせる。	3	・人工知能の進化による働き手に求められる能力の変化について話しあう活動を取り入れる。 ・インターネット依存症に関連し、自身の1日のインターネットの利用時間を見直す活動を取り入れる。 ・望ましい情報社会の在り方について考えたり、情報社会をよりよくする方法について提案したりする活動を取り入れる。	
	第2編 コミュニケーションと情報デザイン			
	第1章 情報のデジタル表現 A アナログとデジタル B デジタル情報の表現 C 文字のデジタル表現 D 音のデジタル表現 E 画像のデジタル表現 F 動画のデジタル表現 G データの圧縮	・情報のデジタル化の基礎的な知識として、アナログとデジタルのちがいとデジタル情報の特徴を理解させる。 ・情報のデジタル化の基礎的な知識と技術として、ビットの概念、2進法による表現、文字、音、画像、動画のデジタル化の原理と表現方法を理解させる。 ・デジタル情報のデータ圧縮の原理と具体例について理解させる。	6	・デジタル化によるメリットやデメリットを対比させながら説明する。 ・デジタル化により、情報を劣化させずに様々な処理が容易にできることを理解させる。 ・できるだけ多くの実習を行い、デジタル化の原理を実感させる。 ・巻末実習3を行い、2進法と10進法の関係を正しく理解させる。

学習内容	指導目標(学習のねらい)	配当時間	備考(実習や指導上の留意点)
第2章 コミュニケーション手段の発展と特徴 A 通信とその進展 B マスコミュニケーションの進展 C 情報の発信とメディアの性質	<ul style="list-style-type: none"> ・古代からの技術的な進歩やコンピュータを使った通信の歴史を概観し、コミュニケーション手段の発展について理解させる。 ・情報伝達のメディアの性質を科学的に理解させるとともに、情報をわかりやすく表現し効率的に伝達するために、適切な情報機器やメディアを選択し利用する方法を身 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・身近なコミュニケーション手段を取り上げ、情報通信技術の進展がコミュニケーション手段を変化させてきたことを理解させる。 ・メディアやコミュニケーション手段を目的や状況に応じてどのように選択するかを考える活動を取り入れる。
第3章 情報デザイン A 情報を表現する方法 B ユニバーサルデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・情報デザインが人や社会に果たしている役割を理解させる。 ・情報を抽象化・構造化・可視化する方法を身に付けさせる。 ・情報を伝える目的や受け手の状況をふまえた適切かつ効果的な情報デザインを考えさせるとともに、それらを表現し、評価し改善する活動を行わせる。 ・ユーザビリティやアクセシビリティ、ユニバーサルデザイン等について、身近な具体例を挙げながら理解させる。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末実習4を活用し、伝えたい情報をわかりやすく表現するために必要な知識と技術を習得させる。 ・ユーザビリティ、アクセシビリティの意味を理解させ、どのようにすればコンピュータやインターネットが使いやすくなるかを考えさせる。 ・バリアフリーやユニバーサルデザインの重要性を認識させる。
第4章 プレゼンテーション A プレゼンテーションとは B プレゼンテーションの流れと注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション手段の1つとして用いられているプレゼンテーションの基本、重要性、手法を理解させるとともに、情報デザインの考え方や方法を表現する技能を身に付けさせる。 ・効果的なコミュニケーションを行うために、プレゼンテーションの注意点、プレゼンテーションソフトウェアの上手な使い方を身に付けさせるとともに、プレゼンテーションを実施し、評価し改善する活動を行 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション用の資料を実際に作成し、実践力を高める。 ・プレゼンテーションソフトウェアの操作にあたっては、適宜巻末資料を参照させる。 ・プレゼンテーションの実習では、生徒どうしで相互評価させ、改善させる場面も取り入れる。
第3編 コンピュータとプログラミング			
2 学期 第1章 コンピュータのしくみ A コンピュータの構成 B コンピュータのソフトウェア C コンピュータでの数値の内部表現	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータや外部装置の基本的なしくみや特徴を理解させる。 ・OSやアプリケーションプログラムなどのソフトウェアの基本的な機能を理解させる。 ・コンピュータの内部における情報の表現方法と計算に関する限界について理解させる。 ・コンピュータで扱われる数や情報の特徴とコンピュータの能力との関係について考 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・CPU、記憶装置、入出力装置、OS、ファイルの基礎などについて、できるだけ実物を扱いながら、そのしくみを理解させる。
第2章 プログラミング A アルゴリズム B プログラミング言語とは C プログラミングの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の解法をアルゴリズムを用いて表現する方法を身に付けさせる。 ・プログラミング言語の実行のしくみやプログラミングの基本を理解させるとともに、プログラミングによってコンピュータを活用する方法を身に付けさせる。 ・アルゴリズムを考え、プログラミングを行う過程において、それらを評価し改善していく力を身に付けさせる。 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末実習5を行い、表計算ソフトウェアでの簡単なプログラムの作成を通してアルゴリズムの基本を理解させる。 ・巻末実習6を行い、フィボナッチ数列のアルゴリズムとプログラムの作成を通して、効率的なアルゴリズムの重要性について考えさせる。

学習内容	指導目標(学習のねらい)	配当時間	備考(実習や指導上の留意点)
第3章 モデル化とシミュレーション A モデル化 B シミュレーション	・モデル化とシミュレーションの考え方や方法を理解させるとともに、社会や自然などにおける事象をモデル化する方法や、シミュレーションを通してモデルを評価し改善する方法について理解させる。 ・目的に応じたモデル化やシミュレーションを行い、その結果をふまえて問題を適切に解決する方法を考えさせる。	4	・紙やカードを用いてモデルを表現し、手でシミュレーションさせるなどの工夫を行う。 ・モンテカルロ法や待ち行列などのシミュレーションを体験的な学習活動を通じて行う。
第4編 情報通信ネットワークとデータの活用			
第1章 ネットワークのしくみ A コンピュータネットワーク B 通信プロトコル C パケット通信 D 通信の信頼性 E IPアドレスとドメイン名 F WWWのしくみとURL G 電子メールの送受信のしくみ H 情報の暗号化	・情報通信ネットワークの基本的な方式やプロトコルの役割について理解させる。 ・通信の信頼性や情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解させる。 ・目的や状況に応じて、情報通信ネットワークの方式やプロトコルを選択したり、情報セキュリティを確保したりする方法について考えさせる。	7	・ハブやルータなどの機器やLAN接続の形態などについて理解させる。 ・パケット通信の原理とメリット、通信の信頼性を確保する方法について理解させる。 ・電子メールやウェブサイトなどを具体的に取り上げ、インターネットの基本的なしくみを理解させる。 ・身のまわりの情報機器を使う際に、情報セキュリティを確保するための方法について考えさせる活動を行う。
第2章 データベース A データベース B さまざまな情報システム	・データベースの概念及びデータベース管理システムの機能やデータの損失を防ぐしくみについて理解させる。 ・データベースが活用されている情報システムについて、それらがサービスを提供するしくみや特徴、社会生活に果たす役割と影響を理解させるとともに、サービスの効果的な活用について考えさせる。	3	・構造化されたデータのデータベースから必要な情報を検索してとりだすなどの実習を行う。 ・情報システムが使われている身近なサービスについて、どんな情報がどのように処理されているか、社会生活にどのような役割を果たしているかを話しあう活動を取り入れる。
第3章 データの分析 A データのさまざまな形式 B データの収集方法 C データの種類と尺度水準 D データの分析 E テキストマイニング	・データを表現・蓄積するためのデータの形式に関する知識と、データの収集、整理、分析する方法について理解させる。 ・表計算ソフトウェアなどを使って簡単なデータ処理や分析を行う方法を身に付けさせる。 ・データの収集、整理、分析の方法や、その結果を表す方法を適切に選択するとともに、それらについて評価し改善する力を身に付けさせる。	6	・巻末実習7, 8を活用し、データ分析の方法を習得させるとともに、得られた結果からどのようなことがわかるか考えさせる。

3
学
期

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 国語 科目 論理国語

教科：国語 科目：論理国語 単位数：2 単位
 対象学年組：第2学年 1組～6組
 教科担当者：（1組：馬場）（2組：奥平）（3組：馬場）（4組：奥平）（5組：馬場）（6組：奥平）
 使用教科書：（精選論理国語（東京書籍））

教科 国語 の目標：
 【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
 【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
 【学びに向かう力、人間性等】 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な言葉の特徴や使い方、話や文章に含まれている情報の扱い方などの国語の知識や技能を養う。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		語 ・ 聞	書	読					
<発見への誘い> 【知識及び技能】 文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 読書における「パラドックス」の状態と「読書の実践」との関係性を理解し説明する。 【学びに向かう力、人間性等】 筆者の主張を踏まえたうえで、「読書」について自分の考えをまとめ、説得力のある説明をしようとしている。	・教材 教科書「いつもそばには本があった」および副教材 ・一人1台端末の活用 等	○	○			○	○	○	6
<発見への誘い> 【知識及び技能】 文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 問題について、多面的な視点で読み、論理の展開を批判的に捉え、論点を明確にしている。 【学びに向かう力、人間性等】 本文の理解を踏まえたうえで、「芸術」についての見方を深め、説明しようとしている。	・教材 教科書「ミロのヴィーナス」および副教材 ・一人1台端末の活用 等		○	○		○	○	○	7
定期考査						○	○		1
<人間を見つめる> 【知識及び技能】 論証や学術的な学習の基礎を学ぶのに必要な語句を習得する。 【思考力、判断力、表現力等】 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。 【学びに向かう力、人間性等】 進んで筆者の主張を読み取り、人間の在り方について自分の考えを深める。	・教材 教科書「分人とは何か」および副教材 ・一人1台端末の活用 等	○	○			○	○	○	7
<人間を見つめる> 【知識及び技能】 論証や学術的な学習の基礎を学ぶのに必要な語句を習得する。 【思考力、判断力、表現力等】 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。 【学びに向かう力、人間性等】 進んで筆者の主張を読み取り、人間の在り方について自分の考えを深める。	・教材 教科書「メディアの変容」および副教材 ・一人1台端末の活用 等	○	○			○	○	○	8
定期考査						○	○		1

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 国語 科目 古典探究

教科：国語 科目：古典探究 単位数：2 単位
 対象学年組：第2学年 1組～6組
 教科担当者：（1組：奥平）（2組：石井）（3組：加藤）（4組：石井）（5組：奥平）（6組：加藤）
 使用教科書：（精選古典探究（東京書籍））

教科 国語 の目標：
 【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
 【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
 【学びに向かう力、人間性等】 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
		話	書	読					
<歌物語> 【知識及び技能】 文や文章の効果的な組み立て方や語句の意味や用法を理解し、語感を磨き語彙を豊かにする。 【思考力、判断力、表現力等】 古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取る。	・教材 教科書『伊勢物語』 「初冠」「月やあらぬ」および副教材 ・一人1台端末の活用 等	○	○		【知識及び技能】 語句の意味や用法を理解し、必要な語句の量を増やすことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 歌物語の特徴について正確に理解し、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取ることができる。	○	○	○	15
<小話> 【知識及び技能】 語句の意味や用法を理解し、語感を磨き語彙を豊かにする。 【思考力、判断力、表現力等】 古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 漢文の基本的な読み方を確認する。	・教材 教科書「先從隄始」および副教材 ・一人1台端末の活用 等	○	○		【知識及び技能】 語句の意味や用法を理解し、必要な語句の量を増やすことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 進んで漢文の読み方を確認し、学習課題に沿って、故事成語の果たす役割について考えることができる。	○	○	○	6
定期考査						○	○		1
<歌物語> 【知識及び技能】 文や文章の効果的な組み立て方や語句の意味や用法を理解し、語感を磨き語彙を豊かにする。 【思考力、判断力、表現力等】 古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取る。	・教材 教科書『枕草子』『中納言参り給ひて』『雪のいと高う降りたるを』および副教材 ・一人1台端末の活用 等	○	○		【知識及び技能】 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えて、古典特有の表現に注意し内容を的確に捉えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 進んで作者の観察眼や「をかし」という語に代表される価値観について理解し、平安時代の後宮生活について考えを深めることができる。	○	○	○	15
<詩> 【知識及び技能】 唐詩の鑑賞を通して、我が国と中国との文化の関係を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 唐詩の鑑賞を通して、言語感覚や想像力を豊かにする。	・教材 教科書「近代詩」および副教材 ・一人1台端末の活用 等	○	○		【知識及び技能】 我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、内容の理解を深めることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 進んでさまざまな唐詩を読み味わい、言語感覚や想像力を豊かにすることができる。	○	○	○	8
定期考査						○	○		1

高等学校 令和7年度（2学年用）教科 地歴公民 科目 日本史探究

教科：地歴公民 科目：日本史探究 単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 1組～ 6組（2組をのぞく）

教科担当者：（1組：中野）（3組：荒井）（4組：中野）（5組：荒井）（6組：中野）

使用教科書：（『詳説 日本史探究』山川出版社）

教科 地歴公民 の目標：

【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 日本史探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをともに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
第1章日本文化のあけぼの ①人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ②打製石器・磨製石器・縄文土器の発掘、堅穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気づく。 ③大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて、弥生文化の形成を考察する。 ④集落・墓の変容から富の蓄積を理解し、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連づけて考察する。 ⑤集落・墓の変容から富の蓄積を理解し、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連づけて考察する。	・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。 ・教材 教科書および副教材 ・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。 ・適宜、グループワークを行う。	【知識・技能】 日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立と変容を、自然環境の変化や大陸との影響に着目して理解している。水稲耕作の開始・金属器の伝来が弥生文化の社会に与えた影響を理解し、弥生土器などの出土品から得られる情報を収集して読み取る技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 黒曜石などの考古資料をもとに、集落・風習・食生活の変化などを踏まえて旧石器文化・縄文文化の社会について考察し、表現している。小国の形成から邪馬台国などの小国の連合について、環濠集落や武器の出現、「魏志」倭人伝などの文献資料にもとづき、国内外の情勢を踏まえて多角的に考察した結果を、根拠を示して表現している。 【主体的態度】 黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成について考察することを通じて、旧石器文化や縄文文化の特色を明らかにしようとしている。日本列島における農耕社会の特色とともに、国家の形成につながるような社会構造の変化について考察することを通じて、弥生文化の特色を明らかにしようとしている。	○	○	○	6
歴史資料と原始・古代の展望 ①中国の歴史書の記事をもとに、日本列島の倭の小国やヤマト政権（倭国）と中国・朝鮮半島の諸国との交流について、多面的・多角的に考察する。 ②古代の対外交流がヤマト政権や律令国家の展開に向かってどのように変化していったか、仮説を表現して展望する。 ③遺跡から出土した木簡の記載内容をもとに、文書主義を特徴とする律令制のもとで人・物・情報がどのように移動していたのか、多面的・多角的に考察する。 ④古代の中央・地方をめぐる物流や地方における文字文化の広がりについて、仮説を表現して展望する。	・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。 ・教材 教科書および副教材 ・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。 ・適宜、グループワークを行う。	【知識・技能】 中国の歴史書の記事をもとに、資料から歴史に関わる情報を収集して読み取る技能を身につけている。木簡の記録をもとに、資料から歴史に関わる情報を収集して読み取る技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 中国の歴史書の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、原始・古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。木簡の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、原始・古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。 【主体的態度】 日本列島における小国およびヤマト政権と中国・朝鮮半島などとの交流について考察することを通じて、古代の対外交流の実態を明らかにしようとしている。木簡を資料として活用し、律令国家における文字文化の広がりについて主体的に考察しようとしている。	○	○	○	3

1 学期

<p>定期考査</p> <p>第2章古墳とヤマト政権</p> <p>①地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。</p> <p>②ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。</p> <p>③古墳時代後期から終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解する。</p> <p>④ヤマト政権の権力争いや大陸文化の撰取に着目して、飛鳥時代を考察する。</p> <p>⑤飛鳥文化に世界の諸地域の文化の影響がみられることを理解する。</p>	<p>・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。</p> <p>・教材 教科書および副教材</p> <p>・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。</p> <p>・適宜、グループワークを行う。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>国家の形成と古墳文化について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、小国の形成過程や古墳の特色を理解している。推古天皇・厩戸王・蘇我馬子による政権運営や飛鳥文化の特色について、中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>中国の歴史書の記事、日本列島内外の金石文、小国の王墓の副葬品などをもとに、中国大陸・朝鮮半島との交渉がもつ意味や、小国の形成過程について多面的・多角的に考察し、表現している。仏教の受容や遣隋使の派遣などの大陸との交流について、資料をもとに考察した結果を、根拠を示して表現している。</p> <p>【主体的態度】</p>	○	○		1
<p>第3章律令国家の形成</p> <p>①律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。</p> <p>②律令にもとづく国内統治体制について理解する。</p> <p>③律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。</p> <p>④平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察する。</p>	<p>・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。</p> <p>・教材 教科書および副教材</p> <p>・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。</p> <p>・適宜、グループワークを行う。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響に着目して、東アジア情勢の変容と政治の関係、律令体制の成立過程などを理解している。平城京における大宝律令・養老律令による律令体制の整備について、遣唐使の派遣や地方社会との関わりなどに着目して理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>天智朝・天武朝・持統朝の政治動向に着目して、律令体制整備の過程について考察し、表現している。文献資料をもとに、藤原氏を中核とする政治抗争の進展と堀田永年私財法にみられる土地制度の変容を関連づけて考察し、根拠を示して表現している。</p> <p>【主体的態度】</p> <p>隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響などに着目して、律令体制の成立過程とのつながりを明らかにしようとしている。平城京の造営と奈良時代の政治の動向に着目して、律令体制の展開に関する課題を主体的に追究しようとしている。</p>	○	○		6
<p>定期考査</p>			○	○		1
<p>第3章律令国家の形成</p> <p>①律令国家の成立期にあたる白鳳文化の形成過程について考察する。</p> <p>②天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。</p> <p>③平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。</p> <p>④東アジアとの関係を踏まえて、唐風文化である弘仁・貞観文化を理解する。</p>	<p>・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。</p> <p>・教材 教科書および副教材</p> <p>・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。</p> <p>・適宜、グループワークを行う。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>隋・唐など中国王朝との関係と文化への影響などに着目して、律令体制の形成と密接に関連する仏教文化の特色を理解している。東アジアとの関係の変化や社会の変化と文化との関係などに着目して、平安遷都前後の諸政策や平安初期の文化の変容を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>盛唐文化の受容を踏まえ、国史などの編纂や仏教美術の展開、仏教の興隆による鎮護国家の思想の誕生などについて考察し、表現している。蝦夷や東アジア世界との関係の変化を踏まえて、中央における藤原北家の台頭、地方における土地支配体制の動揺について考察し、根拠を示して表現している。</p> <p>【主体的態度】</p> <p>隋・唐などの中国王朝から導入された文化を考察し、政治や社会の動きとのつながりを見出そうとしている。東アジアとの関係の変化や社会の変化を考察することを通じて、文化とのつながりを主体的に追究しようとしている。</p>	○	○		8

2 学 期	<p>第4章貴族政治の展開</p> <p>①藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。</p> <p>②日本と東アジアとの関係において、民間の貿易や交流が中心となったことをとらえる。</p> <p>③大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解する。</p> <p>④摂関政治の在り方と文化の展開に、どのような関係があるかを考察する。</p> <p>⑤律令制にもとづく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。</p> <p>⑥地方の反乱やその鎮圧など、武士の成長過程について、源氏などを例にとって考察する。</p>	<p>・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。</p> <p>・教材 教科書および副教材</p> <p>・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。</p> <p>・適宜、グループワークを行う。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>藤原家が権力を掌握していく過程を資料から読み取り、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。大陸からの文物の定着を前提として、平安時代にはより日本の風土にあった文化が形成されたことを理解している。地方の諸勢力の成長と影響などに着目して、律令制度の実態や地方における開発、治安の維持、荘園の発達などについて、その特色や変容を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>奈良時代の政治や平安初期の政治改革とも比較しながら、摂関政治の特色について考察し、根拠を示して表現している。国際関係の変化や遣唐使の廃止などを踏まえ、浄土教の出現による浄土の信仰の変容、かな文学の成立による国文学の発達などに着目して、貴族の生活・文化の特色を考察し、表現している。文献資料を活用して、国司の支配の変容と公領の変質、荘園の発達を踏まえて地方支配の状況を考察し、根拠を示して表現している。</p> <p>【主体的態度】</p> <p>唐の衰退と東アジア情勢の変化が日本社会に与えた影響を考察することを通じて、摂関政治期の社会の特色を明らかにしようとしている。平安時代の政治の在り方と文化との関係</p>	○	○	○	12
	<p>定期考査</p> <p>第5章院政と武士の躍進</p> <p>①院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。</p> <p>②外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。</p> <p>③政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。</p> <p>④古代から中世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。</p>	<p>・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。</p> <p>・教材 教科書および副教材</p> <p>・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。</p> <p>・適宜、グループワークを行う。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>貴族政治や土地制度の変容などをもとに、諸資料から得られる情報を適切かつ効果的に調べてまとめ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。平氏政権の台頭とその背景、宋との交易などについて、諸資料から様々な情報を読み取り、武士の政治進出について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>武士が台頭する契機や、この時期の土地制度の仕組みなどを考察し、古代から中世への時代の転換について根拠を示して表現している。武家政権の権力基盤となる武士の土地所有に至る変化を考察し、歴史における土地の支配や所有がもつ意味について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>【主体的態度】</p> <p>中世社会の特色について多面的・多角的に考察することを通じて、時代を通観する問いを表現し、追究しようとしている。古代との比較などを通して、中世では同じ時期に政治的な力をもつ勢力が複数存在していたことなど、中世の特色を探究しようとしている。</p>	○	○	○	1
	<p>定期考査</p>			○	○		1
	<p>歴史資料と中世の展望</p> <p>①政治や文化の中心であった中世の京都を描いた絵画作品から、情報を収集して読み取る技能を身につける。</p> <p>②資料から適切に読み取った情報をもとに、中世の特色についての仮説を表現して展望する。</p>	<p>・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。</p> <p>・教材 教科書および副教材</p> <p>・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。</p> <p>・適宜、グループワークを行う。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>『年中行事絵巻』『一遍上人絵伝』『洛中洛外図屏風』を比較して、様々な情報を適切かつ効果的に調べてまとめている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>複数の絵画資料に描かれている中世の都大路の様子を比較した結果について、時代を通観する問いを踏まえて考察し、仮説を表現している。</p> <p>【主体的態度】</p> <p>中世の京都を描いた絵画資料から得られる情報をもとに、中世社会の特色について主体的に課題を見出そうとしている。</p>	○	○	○	3

3 学 期	<p>第6章武家政権の成立</p> <p>①鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。</p> <p>②鎌倉幕府の成立時期をめぐる諸説に関して、それぞれの根拠を明確にして考察する。</p> <p>③承久の乱にともなう公武関係の変化に着目して、将軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を理解する。</p> <p>④武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。</p>	<p>・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。</p> <p>・教材 教科書および副教材</p> <p>・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。</p> <p>・適宜、グループワークを行う。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>諸資料から情報を読み取り、源平争乱から鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立、承久の乱が幕府と朝廷との関係に与えた影響などについて理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>幕府と朝廷の二元的支配構造の特色について、諸資料から得られた情報をもとに、根拠を明確にして表現している。武家と公家の関係の変化が土地の支配に及ぼした影響を考察し、根拠を明確にして表現している。鎌倉時代の生産の発達と商品の流通、東アジア情勢や国内での貨幣経済の発達とその意義について、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>【主体的態度】</p> <p>鎌倉幕府の成立過程や封建制度の形成に関する課題を主体的に追究し、前の時代とのつながりを見出そうとしている。公武関係の変化による武家政権の展開に着目し、鎌倉時代を通じた武家の支配の特質について主体的に追究しようとしている。</p>	○	○	○	6
	<p>第6章武家政権の成立</p> <p>①モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながっていくことを理解する。</p> <p>②非御家人に対する権限拡大など、幕府勢力が西国に浸透したことの意義を考察する。</p> <p>③庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。</p> <p>④伝統的な公家文化の世界で、有職故実・古典研究などの学問が進展した背景を考察する。</p>	<p>・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。</p> <p>・教材 教科書および副教材</p> <p>・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。</p> <p>・適宜、グループワークを行う。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>宋・元などユーラシアとの交流に着目して、モンゴル襲来の国際的な背景や国内政治への影響について理解している。公武関係の変化に着目し、鎌倉時代の宗教や文化の特徴について、諸資料から情報を収集して読み取る技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>宋・元との交流の窓口や貿易の担い手などを視野に入れて、ユーラシアとの交流を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>【主体的態度】</p> <p>宋・元などユーラシアとの交流と経済や文化への影響について、主体的に追究しようとしている。鎌倉時代の宗教や文化にみられる平安時代からの特徴の継承や差異について、主体的に追究しようとしている。</p>	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
							合計
							70

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 地歴公民 科目 世界史探究

教科： 地歴公民 科目： 世界史探究 単位数： 2 単位
 対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 6 組（1組をのぞく）
 教科担当者：（1 組： ）（2組： 粕谷 ）（3組： 粕谷 ）（4 組： 粕谷 ）（5組： 粕谷 ）（6 組： 粕谷 ）
 使用教科書：（ 山川出版社 世界史探究 ）

教科 地歴公民 の目標：
【知識及び技能】 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を
【思考力、判断力、表現力等】 現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に
【学びに向かう力、人間性等】 国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

科目 世界史探究 の目標：	
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	【学びに向かう力、人間性等】
	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学期	2 古代オリエント文明とその周辺 【知識及び技能】オリエントの気候風土と歴史を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 当時の歴史や社会を考え、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 オリエント文明への興味をいだき、深めようとする。	①オリエントの風土と、その文明の歴史的特質の関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ②都市国家に富や権力が集まった理由を多面的・多角的に考察し表現する。 ③メソポタミア文明が今日に残した文化的遺産を理解する。 ④エジプト王国が長期にわたって安定した支配を続けられた理由を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤シリア・パレスチナ地方で多くの民族が興亡を繰り返した背景を理解する。 ⑥クレタ文明とミケーネ文明を比較し、そのあだの性格の違いを理解する。 ⑦アッシリアがオリエントをはじめて統一することができた背景を多面的・多角的に考察し表現する。	【知識・技能】オリエントの大半が乾燥地帯であること、そのなかで大河流域のメソポタミアとエジプトで灌漑農業をもとにいち早く文明化したことを理解している。 【思考・判断・表現】ハンムラビ法典や『旧約聖書』などの資料をもとに、当時の社会の特徴や世界の歴史に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】オリエント文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	18
	定期考査			○	○		1
	4 古代ギリシアの都市国家 【知識及び技能】 古代ギリシアに関して基本的な知識を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 理解した内容をまとめたり表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 自らさぼろうと努める。	①ポリスの特徴およびそこでの人々の生活について、オリエントの都市国家と比較したうえで理解する。 ②メソポタミアが軍国主義をしいた理由を多面的・多角的に考察し表現する。 ③民主政発達の経緯および現代の民主主義との相違点について理解する。 ④ギリシアの諸ポリスがマケドニアに敗れた要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤ヘレニズム時代の歴史的意義を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑥ギリシア文明が近代ヨーロッパにもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。	【知識・技能】アテネにおいてどのような経緯で民主政が出現したのか、またギリシア文化にはどのような特徴があるのかを理解している。 【思考・判断・表現】オストラコンなどの考古学的資料や「ペリクレスの演説」などの資料をもとに、ギリシアの人の社会の特徴を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】古代ギリシアについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	17
定期考査			○	○		1	
2 学期	4 中国の古代文明 【知識及び技能】 古代文明から中国王朝初期の知識を得る。 【思考力、判断力、表現力等】 関心を持って、得た知識の定着をはかる土両区を行う。 【学びに向かう力、人間性等】 さらに深める努力をする。	①東アジアでは、気候の異なる地域が混在していたことを理解し、それぞれの気候が各地の生業などに与えた影響を考察し表現する。 ②殷と周の支配形態を比較し、共通点と相違点を理解する。 ③春秋時代と戦国時代を比較し、とくにそれぞれの秩序について違いを見出す。 ④戦国時代の社会において、鉄器の普及がおよぼした影響を多面的・多角的に考察し表現する。	【知識・技能】東アジア各地の風土が、それぞれの地で多様な生業とそれに基づく先史文化を生み出したこと、各地で人々の移動や交流がおこなわれたことを理解している。 【思考・判断・表現】青銅器や獣骨など考古学的資料や『春秋左氏伝』などの資料をもとに、当時の政治や支配のあり方を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】中国の古代文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	16
	定期考査			○	○		1
	3 南アジアの古代文明 【知識及び技能】 風土やそこで誕生した文明及び歴史の展開を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 学んだ内容を要約したりして、理解を深める。 【学びに向かう力、人間性等】 自ら調べて、関心を深めようとする。	①仏教やジャイナ教などの新たな宗教に共通する点について理解する。 ②南アジア最初の統一王朝であるマウリヤ朝のもとでの仏教の発展について理解する。 ③クシャーナ朝と周辺諸地域との関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ④「海の道」の交易における南インドの役割を多面的・多角的に考察し表現する。	【知識・技能】南アジアで生まれたさまざまな宗教が、南アジアの社会や周辺諸地域へ与えた影響を理解している。 【思考・判断・表現】インド洋航海図（地図）や『エリュトゥラ海案内記』などの資料をもとに、インド洋交易の広がりを多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】南アジアで生まれた諸宗教について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	15
定期考査			○	○		1	
1 イスラーム教の諸地域への伝播 【知識及び技能】 イスラーム教の内	①イスラーム化が中央アジアにもたらした変化について理解している。	【知識・技能】中央アジア・南アジア・東南アジア・アフリカの各地でどのようにイスラーム化が進んだの					

3
学
期

<p>容と広まりを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】学んだ内容を理解が深まるようにまとめる。 【学びに向かう力、人間性等】興味ある内容を調べてまとめる</p>	<p>②南アジアにおいてイスラーム教が受け入れられていった経緯を理解している。 ③東南アジアにおいてイスラーム化が進んだ背景について考察し表現している。 ④アフリカにおいてイスラーム化が進んだ要因を考察し表現している。</p>	<p>かを理解している。 【思考・判断・表現】諸地域の交流・再編に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸地域の交流・再編を読み解く観点について考察し、問いを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】諸地域の交流・再編について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	17
定期考査						1
合計						70

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 公民 科目 公共

教科：公民 科目：公共 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～6組

教科担当者：（1組：加藤春）（2組：加藤春）（3組：加藤春）（4組：加藤春）（5組：加藤春）（6組：加藤春）

使用教科書：（高等学校 公共（第一学習社）、最新公共資料集2025（第一学習社）、公共ノート（第一学習社））

教科 公民

の目標：

- 【知識及び技能】 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
- 【思考力、判断力、表現力等】 現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。
- 【学びに向かう力、人間性等】 国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

科目 公共

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	公共的な空間をつくる私たち 青年期の特徴と発達課題、及び個人・社会・伝統と文化の視点から人間のあり方について理解するとともに、自己形成及び社会形成に主体的に参画することの意義について考察する。	・社会に生きる私たち ・個人の尊厳と自主・自律 ・多様性と共通性 ・キャリア形成と自己実現 ・伝統と文化とのかかわり	【知識・技能】 ・青年期の特徴と自己形成の課題、個人・社会・伝統と文化の三つの視点から捉えた人間のあり方について理解する。 【思考・判断・表現】 ・青年期の特徴と自己形成の課題、個人・社会・伝統と文化の三つの視点から捉えた人間のあり方について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・青年期の特徴と自己形成の課題、個人・社会・伝統と文化の三つの視点から捉えた人間のあり方について、自分自身の課題としても捉え、主体的に追究している。	○	○	○	9
	定期考査			○	○		1
	公共的な空間における人間としてのあり方生き方 現代の諸課題について判断し選択する際の考え方としての功利主義と幸福の原理や義務論と公正の原理を理解する。 生命倫理や環境倫理にかかわる課題について、功利主義や義務論の視点から考察し議論する。	・人間と社会のあり方についての見方・考え方 ・環境保護 ・生命倫理 ・公共的な空間を形成するための考え方 ・よりよく生きる行為者としての活動	【知識・技能】 ・現代の諸課題について判断し選択する際の手掛かりとなる功利主義や義務論などの考え方について理解している。 【思考・判断・表現】 ・公共的な空間における基本的原理である民主主義、法の支配と立憲主義、人間の尊厳と平等などの意義とそれらを実現する上での課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・公共的な空間における基本的原理である、民主主義、法の支配と立憲主義、人間の尊厳と平等などの意義とそれらを実現する上での課題について、主体的に追究している。	○	○	○	6
	定期考査			○	○	○	6
2 学期	公共的な空間における基本的原理 公共的な空間における基本的原理である、民主主義、法の支配と立憲主義、人間の尊厳と平等などの意義について理解する。 これらがなぜ公共空間の基本原則とされるのか、また、それらを実現する上での課題について考察する。	・人間の尊厳と平等 ・個人の尊重 ・民主政治の基本原則 ・法の支配 ・自由・権利と責任・義務 ・世界の主な政治体制 ・日本国憲法に生きる基本的原理	【知識・技能】 ・公共的な空間における基本的原理である民主主義、法の支配と立憲主義、人間の尊厳と平等などの意義について理解している。 【思考・判断・表現】 ・公共的な空間における基本的原理である民主主義、法の支配と立憲主義、人間の尊厳と平等などの意義とそれらを実現する上での課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・公共的な空間における基本的原理である、民主主義、法の支配と立憲主義、人間の尊厳と平等などの意義とそれらを実現する上での課題について、主体的に追究している。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
	法的主体となる私たち 法や規範の意義と役割、法の成立と適用、市民生活における法と契約、消費者の権利と責任、司法のしくみと司法参加の意義などについて、実際の社会生活の事象とも関連させながら理解する。 法の意義と役割、消費者の権利と義務、司法参加などにかかわる課題について考察し表現する。	・私たちの生活と法 ・法と基本的人権 ・自由・平等と法・規範 ・法をよりよく変えていくために ・さまざまな契約と法 ・消費者の権利と責任 ・裁判所と人権保障	【知識・技能】 ・法や規範の意義と役割、法の成立と適用、市民生活における法と契約、消費者の権利と責任、司法のしくみと司法参加の意義などについて、理解している。 【思考・判断・表現】 ・法や規範の意義と役割、法の成立と適用、市民生活における法と契約、消費者の権利と責任、司法のしくみと司法参加の意義などについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・法や規範の意義と役割、法の成立と適用、市民生活における法と契約、消費者の権利と責任、司法のしくみと司法参加の意義などについて、主体的に追究している。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
2 学期	政治的主体となる私たち 政治と民主主義、地方自治及び国会、内閣のしくみと役割、政治参加と選挙、政党と利益集団、メディアと世論について、民主政治の実現の観点から理解する。 地方政治、国政に関する課題について、民主政治や民意の反映などの観点から解決に向けて考察し表現する。	・選挙の意義と課題 ・政治参加と世論形成 ・国会と立法 ・内閣と行政の民主化 ・地方自治と住民の福祉	【知識・技能】 ・法や規範の意義と役割、法の成立と適用、市民生活における法と契約、消費者の権利と責任、司法のしくみと司法参加の意義などについて、理解している。 【思考・判断・表現】 ・法や規範の意義と役割、法の成立と適用、市民生活における法と契約、消費者の権利と責任、司法のしくみと司法参加の意義などについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・法や規範の意義と役割、法の成立と適用、市民生活における法と契約、消費者の権利と責任、司法のしくみと司法参加の意義などについて、主体的に追究している。	○	○	○	5
	定期考査			○	○		1
	経済的な主体となる私たち 経済活動の意義、経済循環、市場経済のしくみと政府の役割、国民所得と経済成長、金融のしくみと働き、中央銀行の役割と金融環境の変化、財政の働きと課題、社会保障の考え方と課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。	・私たちと経済 ・労働者の権利と労働問題 ・技術革新の進展と産業構造の変化 ・企業の活動 ・日本経済史 ・市場経済と経済運営 ・市場経済のしくみ ・経済発展と環境保全 ・経済成長と国民福祉 ・金融の意義や役割 ・政府の経済的役割と租税の意義 ・社会保障と国民福祉	【知識・技能】 ・経済活動の意義、経済循環、市場経済のしくみと政府の役割、国民所得と経済成長、金融のしくみと働き、中央銀行の役割と金融環境の変化、財政の働きと課題、社会保障の考え方と課題について理解している。 【思考・判断・表現】 ・経済活動の意義、経済循環、市場経済のしくみと政府の役割、国民所得と経済成長、金融のしくみと働き、中央銀行の役割と金融環境の変化、財政の働きと課題、社会保障の考え方と課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・経済活動の意義、経済循環、市場経済のしくみと政府の役割、国民所得と経済成長、金融のしくみと働き、中央銀行の役割と金融環境の変化、財政の働きと課題、社会保障の考え方と課題について、主体的に追究している。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1

<p>国際社会に生きる私たち</p> <p>国際社会の成り立ち、国際連合の役割、日本の平和主義と冷戦、冷戦後の日本、現代の紛争とその影響、国際平和に向けた課題、貿易のしくみ、国際金融のしくみと動向、グローバル化と国際経済、国際経済の諸課題について、実際の国際社会の事象とも関連させながら理解する。</p> <p>国際政治、国際経済にかかわる諸課題について多面的・多角的に考察する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国家と国際法 ・ 国境と領土問題 ・ 国際連合の役割と課題 ・ 平和主義と安全保障 ・ 核兵器の廃絶と国際平和 ・ 今日の国際社会 ・ 人種・民族問題と地域紛争 ・ 国際社会における日本の役割 ・ 国際分業と国際貿易体制 ・ 国際種収支と為替相場 ・ 経済的グローバル化と日本 ・ 地域的経済統合の動き ・ 国際社会における貧困や格差 ・ 地球環境問題 ・ 資源・エネルギー問題 ・ 国際社会のこれから 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際社会の成り立ち、国際連合の役割、日本の平和主義と冷戦、冷戦後の日本、現代の紛争とその影響、国際平和に向けた課題、貿易のしくみ、国際金融のしくみと動向、グローバル化と国際経済、国際経済の諸課題について理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際社会の成り立ち、国際連合の役割、日本の平和主義と冷戦、冷戦後の日本、現代の紛争とその影響、国際平和に向けた課題、貿易のしくみ、国際金融のしくみと動向、グローバル化と国際経済、国際経済の諸課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際社会の成り立ち、国際連合の役割、日本の平和主義と冷戦、冷戦後の日本、現代の紛争とその影響、国際平和に向けた課題、貿易のしくみ、国際金融のしくみと動向、グローバル化と国際経済、国際経済の諸課題について、主体的に追究している。 	○	○	○	12
<p>3 学 期</p> <p>持続可能な社会づくりの主体となる私たち</p> <p>現代社会の諸課題について、探究的な課題を設定し、課題解決に向けて必要な情報を収集して分析したり考察したりする。</p> <p>探究の結果や自らの主張を論拠を明確にして説明したり表現したりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地球環境問題 ・ 資源・エネルギー問題 ・ 生命倫理 ・ 情報 ・ 国際社会の課題 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題解決に必要な事項を理解している。また、第1編・第2編で学習した知識と関連付けている。 ・ 必要な資料を収集・整理し、必要な事項を抽出しまとめている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題解決に向けて必要な資料や情報を収集し、分析したり考察したり判断したりしている。 ・ 得られた結果や自らの主張を、論拠を明確にして説明したり表現したりしている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 探究のための学習計画をふまえて、探究活動の進行を自ら振り返り調整しながら、解決に向けて主体的に取り組んでいる。 	○	○	○	6
<p>定期考査</p>			○	○		70
合計						

高等学校 令和7年度（2学年用）

理科 化学

教科：理科

科目：化学

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年

1・2・3・4 組

教科担当者：（ 多田 ）

使用教科書：（ 高等学校 化学 啓林館 ）

教科 理科 化学 の目標：

【知識及び技能】自然の事物・現象についての知識・理解を深める。

【思考力、判断力、表現力等】自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に思考し判断する能力を育てる。

【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察実験に対する技能を身に着けようとする能力を養う。

科目 化学 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
化学的な事物・現象に対する探究心を高め、基本的な概念や原理法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、化学的に探究する能力を身に着ける。探究の方法や結果を表現する能力を身に着ける。	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察実験などを行う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	無機物質 無機物質の性質や反応を観察、実験などを通して探究し、元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。	水素と貴ガス ハロゲン 酸素・硫黄 窒素・リン 炭素・ケイ素	【知識・技能】 非金属元素の単体及び化合物の性質がわかる。 【思考・判断・表現】 非金属元素の単体及び化合物の性質を、電子配置や酸・塩基、酸化・還元などと関連付けて考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 非金属元素の単体及び化合物について、それらの反応や性質を考えたり、調べたりしようとする。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	無機物質 無機物質の性質や反応を観察、実験などを通して探究し、元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。	アルカリ金属 2族元素 アルミニウム亜鉛・水銀 スズ・鉛 遷移元素 金属イオンの分離	【知識・技能】 非金属元素の単体及び化合物の性質がわかる。 【思考・判断・表現】 非金属元素の単体及び化合物の性質を、電子配置や酸・塩基、酸化・還元などと関連付けて考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 非金属元素の単体及び化合物について、それらの反応や性質を考えたり、調べたりしようとする。	○	○	○	12
定期考査			○	○		1	
2 学期	有機化合物 有機化合物の性質や反応を観察、実験などを通して探究し、有機化合物の分類と特徴を理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。	有機化合物の特徴と分類 有機化合物の分析 飽和炭化水素 不飽和炭化水素 アルコールとエーテル アルデヒドとケトン カルボン酸 エステルと油脂	【知識・技能】 有機化合物の性質や反応についてその構造と関連付けて理解できる。 【思考・判断・表現】 有機化合物の分類と特徴を理解しそれを日常生活や社会と関連付けて考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 有機化合物の性質や反応について実験・観察を通じて探究できる。			○	14
	定期考査			○	○		1
	有機化合物 有機化合物の性質や反応を観察、実験などを通して探究し、有機化合物の分類と特徴を理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。	芳香族炭化水素 酸素を含む芳香族化合物 窒素を含む芳香族化合物 有機化合物の分離 医薬品 染料 食品	【知識・技能】 有機化合物の性質や反応についてその構造と関連付けて理解できる。 【思考・判断・表現】 有機化合物の分類と特徴を理解しそれを日常生活や社会と関連付けて考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 有機化合物の性質や反応について実験・観察を通じて探究できる。			○	14
定期考査			○	○		1	
3 学期	固体の構造 物質の状態変化 気体の性質 気体、固体の性質を観察、実験などを通して探究し、物質の状態変化、状態間の平衡、溶解平衡及び溶液の性質について理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。	結晶の構造 アモルファス 状態変化 気液平衡と蒸気圧 気体の体積変化 気体の状態方程式	【知識・技能】 固体・気体について状態変化、溶解平衡について理解できる。 【思考・判断・表現】 固体・気体についてその性質を日常生活や社会と関連付けて考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 固体・気体の性質や反応について実験・観察を通じて探究できる。			○	15
	定期考査			○	○		1
							合計
							70

年間授業計画

高等学校 令和 7 年度

2 学年

教科： 外国語（英語）

科目： 英語コミュニケーション2

3 単位

教科： 外国語（英語） 科目： 英語コミュニケーション2

対象学年・組： 第2学年 1組～6組

教科担当者：（1組 渡邊敦子 ）（2組 渡邊敦子 ）（3組 渡邊敦子 ）（4組 秋山英恵 ）（5組 秋山英恵 ）（6組 秋山英恵 ）

使用教科書：

教科（外国語（英語））の目標：

- ①知識及び技能： 外国語で読む、書く、聞く、話すの4技能を中心とした統合的な言語活動を行うことができる。
- ②思考力、判断力、表現力等 論理の構成や展開を考察して的確に把握でき、情報や考えをまとめて論理的に表現できる。
- ③学びに向かう力、人間性等 コミュニケーションの技能を磨き論理的思考を習得するために積極的な姿勢で学習できる。

科目 英語コミュニケーション2 の目標

①知識及び技能	②思考力、判断力、表現等	③学びに向かう力、人間性等
教科書で学んだ文章を理解できる。題材についての発話を聞き取ることができる。身近な話題について言語活動を行うことができる。	教科書で学んだ文法・語彙の知識を応用し、社会、学校、娯楽などについて、討論や発表ができる。	教科書を予習することにより積極的に授業に参加し、復習や課題によって言語の習得に前向きに取り組む。

	単元の具体的な指導目標	領域				評価規準	目標			配当時数
		聞くこと	読むこと	話すこと	書くこと		①	②	③	
1 学期	Lesson 1～4 対話文 説明文 論証文	○	○	やり取り ○	○	<p>聞くこと：社会、学校、娯楽などで普段で会うような身近な話題についてのスピーチやインタビューなどが標準的な話し方であれば要点を理解することができる。</p> <p>読むこと：教科書の文章の要点を捉えることができ、英和辞典を参照すれば適切に読み取ることができる。身近な事態についての文章を読み取ることができる。</p>	○	○	○	1
	1 学期定期考査	○	○	発表 ○	○		○	○	○	
2 学期	Lesson 5～8 報告文 説明文 物語 意見	○	○	やり取り ○	○	<p>話すこと（やり取り）：社会、学校、娯楽などについて、自分の意見や感想を述べ合うことができる。身近な話題について討論などの意見交換を行うことができる。</p> <p>話すこと（発表）：社会、学校、娯楽などについて、自分の意見や感想を筋の通った構成でスピーチに仕立て、効果的に発表することができる。</p>	○	○	○	1
	2 学期定期考査	○	○	発表 ○	○		○	○	○	
3 学期	Lesson 9～10 説明文 意見	○	○	やり取り ○	○	<p>聞くこと：教科書で学んだ文法や語彙を正しく使用し、身近な話題や個人的に関心のある話題について2パラグラフ以上の筋の通った文章を作ることができる。</p> <p>（CAN-DOリストによる）</p>	○	○	○	1
	学年末考査	○	○	発表 ○	○		○	○	○	
							配当時数合計			3

年間授業計画

高等学校 令和 7 年度 2 学年 教科：外国語（英語） 科目：論理表現2

3 単位

教科： 外国語（英語） 科目： 論理表現2

対象学年・組： 第2学年 1組～6組

教科担当者：（1組 秋山、藤田 ）（2組 秋山、佐野 ）（3組 秋山、吉川 ）（4組 佐野、吉川 ）（5組 藤田、佐野 ）（6組 吉川、佐野 ）

使用教科書： Vision Quest English Logic and Expression 2

教科（外国語（英語））の目標：

- ①知識及び技能： 外国語で読む、書く、聞く、話すの4技能を中心とした統合的な言語活動を行うことができる。
- ②思考力、判断力、表現力等 論理の構成や展開を考察して的確に把握でき、情報や考えをまとめて論理的に表現できる。
- ③学びに向かう力、人間性等 コミュニケーションの技能を磨き論理的思考を習得するために積極的な姿勢で学習できる。

科目 論理表現2 の目標

①知識及び技能	②思考力、判断力、表現等	③学びに向かう力、人間性等
教科書で学んだ文法・語法を十分に理解している。標準的な発話を聞き取り要点を理解できる。標準的な発音ができる。	教科書で学んだ知識を元に身近な出来事についての発話を聞き取り要点を理解できる。身近な話題についての英作文ができる。	教科書を予習することにより積極的に授業に参加し、復習や課題によって言語の習得に前向きに取り組む。

	単元の具体的な指導目標	領域				評価規準	目標			配当時数
		聞くこと	読むこと	話すこと	書くこと		①	②	③	
1 学期	Lesson 1～4 文型 時制 助動詞	○	○	やり取り ○	○	聞くこと：社会、学校、娯楽などで普段で会うような身近な話題についてのスピーチやインタビューなどが標準的な話し方であれば要点を理解することができる。 読むこと：教科書の文章の要点を捉えることができ、英和辞典を参照すれば適切に読み取ることができる。身近な事態についての文章を読み取ることができる。	○	○	○	36
	発表 ○									
	1 学期定期考査	○	○		○	○			1	
2 学期	Lesson 5～8 態 準動詞 関係詞	○	○	やり取り ○	○	話すこと（やり取り）：社会、学校、娯楽などについて、自分の意見や感想を述べ合うことができる。身近な話題について討論などの意見交換を行うことができる。 話すこと（発表）：社会、学校、娯楽などについて、自分の意見や感想を筋の通った構成でスピーチに仕立て、効果的に発表することができる。	○	○	○	42
	発表 ○									
	2 学期定期考査	○	○		○	○			1	
3 学期	Lesson 9～10 比較 仮定法	○	○	やり取り ○	○	聞くこと：教科書で学んだ文法や語彙を正しく使用し、身近な話題や個人的に関心のある話題について2パラグラフ以上の筋の通った文章を作ることができる。 (CAN-DOリストによる)	○	○	○	24
	発表 ○									
	学年末考査	○	○		○	○			1	
配当時数合計									105	

高等学校 令和7年度(2学年用) 教科 家庭科 科目 家庭基礎

教科: 家庭 科目: 家庭基礎 単位数: 2 単位

対象学年組: 第2学年 1組~ 6組

教科担当者: (1組: 武藤・佐々 (2組: 武藤・佐々 (3組: 武藤・佐々 (4組: 武藤・佐々 (5組: 武藤・佐々 (6組: 武藤・佐々

使用教科書: (東京書籍 家庭基礎 自立・共生・創造 第一学習社 生活ハンドブック)

教科 家庭基礎 の目標:

- 【知識及び技能】人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な
- 【思考力、判断力、表現力等】家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・
- 【学びに向かう力、人間性等】様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、

科目 家庭基礎 の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けるようにする。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
			○	○	○	
1学期 家庭科の学び方 (・言語活動の充実) 第1章 生涯を見通す 1人生を展望する	・ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 ・生活に生かそう・自分の意見を文章にまとめよう ・人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解している。 ・生涯発達の視点で青年期の課題を理解している。	【知識・技能】 ホームプロジェクト意義と実施方法について理解している。 【思考・判断・表現】 自己の家庭生活の生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。 【主体的に学習に取り組む態度】 課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○	○	○	4
第9章 経済生活を営む	1情報の収集・比較と意思決定 2購入・支払いのルールと方法 3消費者の権利と責任 4生涯の経済生活を見通す 5これからの経済生活	【知識・技能】 ・自立した責任ある消費者として、よりよい意思決定ができるよう、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。 【思考・判断・表現】 生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について思考しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 生活における経済の計画について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	○	○	○	7
第6章 食生活をつくる	1食生活の課題について考える 2食事と栄養・食品 3食生活の選択と安全 調理実習1回目	【知識・技能】 ・より良い食習慣を身につけ、生涯を健康に過ごすため食品の栄養的特質、調理上の性質について理解する 【思考・判断・表現】 ・食生活の課題について考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人々と協働し、食生活と健康について振り返って改善したり充実向上を図るため実践しようとしている	○	○	○	11
定期考査 HPの実践 (夏休み)			○	○	○	1
2学期 第2章 人生をつくる	1 人生をつくる 2 家族・家庭を見つめる 3 これからの家庭生活と社会 4 家族が抱える問題 ディベート	【知識・技能】 家族・家庭の機能と家族関係について理解を深めている。 【思考・判断・表現】 ・男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想して課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題について理解を深めている。 ・家族・家庭と社会との関わりについて理解を深めている。	○	○	○	16
第6章 食生活を作る	4生涯の健康を見通した食事計画 調理実習2回目 6調理の基礎 食生活の文化と知恵 これからの食生活	【知識・技能】ライフステージに応じた食生活の特徴を理解している 【思考・判断・表現】食品の調理上の性質について問題を見出し解決する力を身につける 【主体的に学習に取り組む態度】様々な人々と協働し、食生活と健康について振り返って改善したり充実向上を図るため実践しようとしている				18

高等学校 令和7年度(3学年用) 教科 国語 科目 論理国語

教科：国語 科目：論理国語 単位数：2 単位
 対象学年組：第3学年 1組～6組
 教科担当者：(1組：福永) (2組：福永) (3組：福永) (4組：福永) (5組：石井) (6組：石井)
 使用教科書：(精選論理国語 東京書籍)

教科 国語 の目標：
 【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
 【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
 【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 論理国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			語	書	読					
1 学 期	A 学問のまなざし 評論『リスク』と『リスク社会』 神里達博 【知識及び技能】 接続詞などの語を踏まえ、文章の構成を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 筆者の意見と引用を適切に読み取り、それぞれの内容を自分でまとめる。 【学びに向かう力、人間性等】 現代の生活に密接に関連する文章に、興味関心を持って取り組む。	・指導目標をもとに、板書やPowerPoint、プリントなどを利用して説明する。 ・教科書および関連する評論文の抜粋を、大学入試の傾向を踏まえて使用する。 ・作品に出てくる社会的事件についてなど、適宜通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。	○	○	○	【知識及び技能】 接続詞などの語を踏まえ、文章の構成を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 筆者の意見と引用を適切に読み取り、それぞれの内容を自分でまとめることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 現代の生活に密接に関連する文章に、興味関心を持って取り組むことができる。	○	○	○	7
	定期考査		○	○		○	○		1	
	B 言語を再考する 評論「言語と記号」丸山圭三郎 【知識及び技能】 言語論についての抽象的な内容を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 文中での抽象的な内容に、自身で具体例を考えて周囲に説明する。 【学びに向かう力、人間性等】 非日常的な視点を有する抽象的な文章に、興味を持って取り組む。	・指導目標をもとに、板書やPowerPoint、プリントなどを利用して説明する。 ・教科書および関連する評論文の抜粋を、大学入試の傾向を踏まえて使用する。 ・作品に出てくる人文学的な用語についてなど、適宜通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。	○	○	○	【知識及び技能】 言語論についての抽象的な内容を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 文中での抽象的な内容に、自身で具体例を考えて周囲に説明することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 非日常的な視点を有する抽象的な文章に、興味を持って取り組むことができる。	○	○	○	7
	定期考査		○	○		○	○		1	
1 学 期	C 入試問題演習 副教材『現代文 共通テスト+センター試験 国語過去問題』尚文出版 「江戸の妖怪革命」香川雅信 【知識及び技能】 文章をすばやく適切に読み取る。 【思考力、判断力、表現力等】 複数の文章について、比較して内容を捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 テレビや娯楽で馴染みのある妖怪について、学術的な視点から論じた文に、関心を持って取り組む。	・指導目標をもとに、板書や副教材を利用して説明する。 ・大学入試希望者が多いため、入試で用いられた文章をすばやく適切に読む練習を、タイマーを用いて行わせる。 ・作品に出てくる人文学的な用語についてなど、適宜通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。	○	○		【知識及び技能】 文章をすばやく適切に読み取ることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 複数の文章について、比較して内容を捉えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 テレビや娯楽で馴染みのある妖怪について、学術的な視点から論じた文に、関心を持って取り組むことができる。	○	○		5
	定期考査		○	○		○	○		1	
	D 困難な時代に 「社会の壊れるとき 知性的であるとはどういうことか」鷲田清一 【知識及び技能】 平易な語りで叙述しつつも、逆説的にも見える特徴的な論の展開を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 「摩擦」の絶えない現代においてどのように生きるか、その可能性を協議する。 【学びに向かう力、人間性等】 身近な問題でも社会問題でもある内容に対して、広い視野を持つようとする。	・指導目標をもとに、板書やPowerPoint、プリントなどを利用して説明する。 ・教科書および関連する評論文の抜粋を、大学入試の傾向を踏まえて使用する。 ・作品に出てくる社会的事件についてなど、適宜通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。	○	○	○	【知識及び技能】 平易な語りで叙述しつつも、逆説的にも見える特徴的な論の展開を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 「摩擦」の絶えない現代においてどのように生きるか、その可能性を協議することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 身近な問題でも社会問題でもある内容に対して、広い視野を持つようすることができる。	○	○	○	8
	E 入試問題演習 副教材『現代文 共通テスト+センター試験 国語過去問題』尚文出版 『もの』の詩学 多木浩二	・指導目標をもとに、板書や副教材を利用して説明する。 ・大学入試希望者が多いため、入試で用いられた文章をすばやく適切に				【知識及び技能】 文章をすばやく適切に読み取ることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 複数の文章について、比較して内容を捉えるこ				

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 公民 科目 政治・経済

教科：公民 科目：政治・経済 単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 1組～6組

教科担当者：（1組：青野）（2組：青野）（3組：青野）（4組：青野）（5組：青野）（6組：足田）

使用教科書：（高等学校 政治・経済（第一学習社）、最新政治・経済資料集2024（第一学習社）、政治・経済ノート（第一学習社））

教科 公民

の目標：

- 【知識及び技能】 選択・判断の手掛かりとなる知識や理論、及び政治・経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に抽出できる。
- 【思考力、判断力、表現力等】 現代の諸課題について、事実を基に理論などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断して、合意形成や社会参画を視野に入れながら自らの意見を展開できる。
- 【学びに向かう力、人間性等】 国家及び社会の有為な形成者として、よりよい社会の実現を求めて、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

科目 政治・経済

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる知識や理論について理解するとともに、諸資料から、主権者として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付けられるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や歴史的事実を学び、生徒が主権者として、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を実現するために必要な知識や技能の習得を支援する。	より良い社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。また、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、主権者として、自国を愛すとともに、自他の違いを認め、他国の文化も尊重できる多文化共生を受容できる寛容さの育成に努める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	日本国憲法と現代政治のあり方 政治や法を理解するための基本的な用語や理論を学び、法の支配と立憲主義、基本的人権や新しい権利、義務の概念や意味とその背景について理解する。	・政治と法の意義と機能 ・法の支配と立憲主義 ・基本的人権 ・新しい人権 ・権利と義務	【知識・技能】 ・政治における基本的原理である民主主義、法の支配と立憲主義、人間の尊厳と平等などの意義とそれらを実現する上での課題について、理解する。 【思考・判断・表現】 ・政治における基本的原理である民主主義、法の支配と立憲主義、人間の尊厳と平等などの意義とそれらを実現する上での課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・政治における基本的原理である、民主主義、法の支配と立憲主義、人間の尊厳と平等などの意義とそれらを実現する上での課題について、主体的に追究している。	○	○	○	9
	定期考査			○	○		1
	日本国憲法と現代政治のあり方 日本の政治機構に影響を与えている議院内閣制や大統領制のシステムの基本的な用語や理論を学び、国会や内閣、裁判所等の統治機構についての理解を深める。	・議院内閣制と世界の政治体制 ・国会の組織と立法 ・内閣の機構と行政 ・裁判所の機能と司法制度	【知識・技能】 ・議院内閣制や大統領制のシステムの基本的な用語や理論を学び、国会や内閣、裁判所等の統治機構について理解している。 【思考・判断・表現】 ・議院内閣制や大統領制、国会や内閣、裁判所等の統治機構についてのあるべき姿とそれらを実現する上での課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・議院内閣制や大統領制、国会や内閣、裁判所等の統治機構についてのあるべき姿とそれらを実現する上での課題について、主体的に追究している。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
2 学期	市場経済の機能と限界 ・経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、市場の失敗と公害、消費者問題の知識と理論を、実際の社会生活の事象とも関連させながら理解させる。	・経済活動と市場 ・経済主体と経済循環 ・国民経済の大きさと経済成長 ・物価と景気変動 ・市場の失敗と公害・消費者問題	【知識・技能】 ・経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、市場の失敗と公害・消費者問題の考え方や課題について理解している。 【思考・判断・表現】 ・経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、市場の失敗と公害・消費者問題などについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、市場の失敗と公害・消費者問題などについて、主体的に追究している。	○	○	○	7
	持続可能な経済活動と福祉の向上 ・財政や金融の仕組みと働き、日本経済の変化と中小企業、農業問題、労使関係と労働問題、社会保障制度と福祉のあり方の知識と理論を、実際の社会生活の事象とも関連させながら理解させる。	・財政のしくみと租税の意義 ・金融のしくみと働き ・日本経済の変化と中小企業、農業問題 ・労使関係と労働問題 ・社会保障制度と福祉のあり方	【知識・技能】 ・財政のしくみと租税の意義、金融のしくみと働き、日本経済の変化と中小企業、農業問題、労使関係と労働問題、社会保障制度と福祉のあり方などについて、理解している。 【思考・判断・表現】 ・財政のしくみと租税の意義、金融のしくみと働き、日本経済の変化と中小企業、農業問題、労使関係と労働問題、社会保障制度と福祉のあり方などについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・財政のしくみと租税の意義、金融のしくみと働き、日本経済の変化と中小企業、農業問題、労使関係と労働問題、社会保障制度と福祉のあり方などについて、主体的に追究している。	○	○	○	5
	定期考査			○	○		1
	現代日本の諸課題の研究 ・格差の理由とその対策、少子高齢社会における社会保障、地域社会の自立と政府、多様な働き方、生き方を可能にする社会等、現代日本の諸問題について実際の社会生活の事象とも関連させながら理解させ、主権者の一人としてどう対応すべきか考えさせる。	・格差の理由とその対策 ・少子高齢社会における社会保障 ・地域社会の自立と政府 ・多様な働き方、生き方を可能にする社会 ・産業構造の変化と起業 ・市場経済と経済運営 ・歳入歳出面での財政健全化 ・食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現 ・防災と安全、安心な社会の実現	【知識・技能】 ・格差の理由とその対策、少子高齢社会における社会保障、地域社会の自立と政府、多様な働き方、生き方を可能にする社会等の現代日本の諸問題について理解している。 【思考・判断・表現】 ・格差の理由とその対策、少子高齢社会における社会保障、地域社会の自立と政府、多様な働き方、生き方を可能にする社会等の現代日本の諸問題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・格差の理由とその対策、少子高齢社会における社会保障、地域社会の自立と政府、多様な働き方、生き方を可能にする社会等の現代日本の諸問題について、主体的に追究している。	○	○	○	14
定期考査			○	○		1	

3 学 期	授業なし						
						○	0
	定期考査				○	○	合計 52

年間授業計画

高等学校 令和 7 年度

3 学年

教科： 外国語（英語）

科目： 英語コミュニケーション3

3 単位

教科： 外国語（英語） 科目： 英語コミュニケーション3

対象学年・組： 第3学年 1組～6組

教科担当者：（1組 佐野聖崇 ）（2組 佐野聖崇 ）（3組 佐野聖崇 ）（4組 藤田薫 ）（5組 藤田薫 ）（6組 藤田薫 ）

使用教科書： CROWN English Communication III

教科（外国語（英語））の目標：

- ①知識及び技能： 外国語で読む、書く、聞く、話すの4技能を中心とした統合的な言語活動を行うことができる。
- ②思考力、判断力、表現力等 論理の構成や展開を考察して的確に把握でき、情報や考えをまとめて論理的に表現できる。
- ③学びに向かう力、人間性等 コミュニケーションの技能を磨き論理的思考を習得するために積極的な姿勢で学習できる。

科目 英語コミュニケーション3 の目標

①知識及び技能	②思考力、判断力、表現等	③学びに向かう力、人間性等
教科書で学んだ文章を理解できる。題材についての発話を聞き取ることができる。幅広い話題について言語活動を行うことができる。	教科書で学んだ文法・語彙の知識を応用し、専門分野を含む幅広い話題について、議論や発表ができる。	教科書を予習することにより積極的に授業に参加し、復習や課題によって言語の習得に前向きに取り組む。

	単元の具体的な指導目標	領域				評価規準	目標			配当時数
		聞くこと	読むこと	話すこと	書くこと		①	②	③	
1 学期	Lesson 1～4 文型 時制 助動詞	○	○	やり取り ○	○	<p>聞くこと：自然な速度や多様なアクセントで話される英語を聞き取ることができる。幅広い領域における抽象的で複雑な話題について要点を理解することができる。</p> <p>読むこと：教科書の文章の要点を捉え、英和辞典を参照すれば正確に読み取ることができる。抽象的で複雑な文章を理解でき、筆者の意図を考察できる。</p>	○	○	○	36
	1 学期定期考査	○	○		○		○	○		
2 学期	Lesson 5～8 態 準動詞 関係詞	○	○	やり取り ○	○	<p>話すこと（やり取り）：相手が母語話者であっても緊張せず普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然な会話ができる。相手の意見を聞いた上で自らの主張を述べ、議論ができる。</p> <p>話すこと（発表）：自分の専門分野についての説明ができる。教科書の題材に限らず幅広い話題について論理的に意見を発表できる。</p>	○	○	○	42
	2 学期定期考査	○	○		○		○	○		
3 学期	Lesson 9～10 比較 仮定法	○	○	やり取り ○	○	<p>聞くこと：自分の専門分野の技術的な議論も含め、幅広い話題について英語として自然な文脈で複数パラグラフで適切に構成された文章を作ることができる。</p> <p>（CAN-DOリストによる）</p>	○	○	○	24
	学年末考査	○	○		○		○	○		
配当時数合計										105

年間授業計画

高等学校 令和 7 年度

3 学年

教科： 外国語（英語）

科目： 論理表現3

3 単位

教科： 外国語（英語） 科目： 論理表現3

対象学年・組： 第3学年 1組～6組

教科担当者: (1組 吉川彰規) (2組 入江彰) (3組 吉川彰規) (4組 渡邊敦子) (5組 渡邊敦子) (6組 入江彰)

使用教科書： Vision Quest English Logic and Expression 3

教科（外国語（英語））の目標：

- ①知識及び技能： 外国語で読む、書く、聞く、話すの4技能を中心とした統合的な言語活動を行うことができる。
- ②思考力、判断力、表現力等論理の構成や展開を考察して的確に把握でき、情報や考えをまとめて論理的に表現できる。
- ③学びに向かう力、人間性等コミュニケーションの技能を磨き論理的思考を習得するために積極的な姿勢で学習できる。

科目 論理表現3 の目標

①知識及び技能	②思考力、判断力、表現等	③学びに向かう力、人間性等
教科書で学んだ文法・語法を十分に理解している。多様なアクセントの発話を聞き取り要点を理解できる。流暢な発音ができる。	教科書で学んだ知識を元に専門分野を含む幅広い話題についての発話を聞き取り要点を理解できる。複数段落の英作文ができる。	教科書を予習することにより積極的に授業に参加し、復習や課題によって言語の習得に前向きに取り組む。

	単元の具体的な指導目標	領域				評価規準	目標			配当時数
		聞くこと	読むこと	話すこと	書くこと		①	②	③	
1 学期	EARTHRISE III Lesson 1～ Lesson 6 Next Stage Best Trainer	○	○	やり取り ○	○	聞くこと：自然な速度や多様なアクセントで話される英語を聞き取ることができる。幅広い領域における抽象的で複雑な話題について要点を理解することができる。 読むこと：教科書の文章の要点を捉え、英和辞典を参照すれば正確に読み取ることができる。抽象的で複雑な文章を理解でき、筆者の意図を考察できる。	○	○	○	36
	発表 ○									
	1 学期定期考査	○	○		○		○	○		1
2 学期	EARTHRISE III Lesson 7～ Lesson 12 Next Stage Winning Spirit	○	○	やり取り ○	○	話すこと（やり取り）：相手が母語話者であっても緊張せず普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然な会話ができる。相手の意見を聞いた上で自らの主張を述べ、議論ができる。 話すこと（発表）：自分の専門分野についての説明ができる。教科書の題材に限らず幅広い話題について論理的に意見を発表できる。	○	○	○	42
	発表 ○									
	2 学期定期考査	○	○		○		○	○		1
3 学期	共通テスト問題演習	○	○	やり取り ○	○	聞くこと：自分の専門分野の技術的な議論も含め、幅広い話題について英語として自然な文脈で複数パラグラフで適切に構成された文章を作ることができる。 (CAN-DOリストによる)	○	○	○	24
	発表 ○									
	学年末考査	○	○		○		○	○		1
配当時数合計										105